大会本部の様子（平尾教会大名クロスガーデン）

開会礼拝の片山寛教授

大会のポスター

奥村敏夫牧師による主題講演の質疑の様子

大会本部の様子

「３つの神学校の現状と取り組み」の質疑の様子

挨　拶

第５６回全国壮年大会実行委員会
実行委員長　藤　寿

今回の大会は、新型コロナウィルス感染症の感染拡大の影響によって、Zoom 会議によるオンライン開催での大会となりましたが、全国の教会伝道所から３０４名の参加登録者がありましたことを心から感謝申し上げます。また、この大会で講演や説教などをして頂いた先生方には、大幅なプログラムの見直しと、事前の動画撮影などにご協力を頂きましたことを感謝いたします。

今回の大会を準備していくに当たり、三つの危機と向かい合いつつ準備に取り組んできました。一つ目の危機は、2012 年以降、「日本バプテスト連盟も、加盟する教会伝道所も教勢の減少傾向が続いている」ということです。これまでの体制では維持できない状況にある為に、第 4 次機構改革が協議される事態になっております。併せて、「献身者の減少傾向も続いている」ということです。西南学院大学神学部の入学者がここ数年大幅に少なくなっておりますが、在学生の人数も 2021 年度は一桁にまで減少しております。そのような危機と向かい合うために、今回は大会の中で、伝道者養成の現状を知るために、西南学院大学神学部、東京バプテスト神学校、九州バプテスト神学校の現状と取り組みについてお話しをして頂きました。

また、日本バプテスト連盟の中田義直常務理事には、「教会の現状と、これからの協力伝道」と題して講演を頂きました。このように厳しい現状にある中で、諸教会伝道所の取り組み、そして近隣教会などとの協力伝道として何が出来るのかを一緒に考えるために企画いたしました。

今回、主題講演を釧路キリスト教会の奥村敏夫先生にお願いをしましたが、過疎化が進む北海道の道東地域においての取り組みについて聞くという事が大きな目的でした。その打ち合わせのために、釧路教会を訪問し、奥村敏夫牧師と釧路キリスト教会の方々が担っておられる広域伝道の働きを見せて頂きました。そのきっかけが、出会いを大切されたことから始まっていることを伺い、改めて日頃の私たち自身の伝道の在り方を考えさせられました。また、その取り組みを通して、4 つの礼拝が行われ、そして外国からの技能実習生との出会いと支援、その支援に地域の方々が関わって下った出来事は、私たちの教会伝道所もまた、通り過ぎるのではなく、「出会い、関わる者」となっていく事の大切さを改めて気づかされました（ルカ 10：25 以降）。

二つ目の危機として、「新型コロナウィルス感染症の感染拡大」ということが大きな危機として、私たち実行委員会の準備に影響しました。2020 年 2 月から日本においての感染拡大が始まりましたが、このような新型ウィルスによるパンデミック（感染爆発）は初めての経験であり、政府も行政も後手後手の対応となり、私たち実行委員会も今後の感染状況が分からない中で、集まっての会議が出来ずに、リモートでの会議に切替えての準備となりました。また、2019 年 11 月からこの実行委員会はスタートしましたが、当初は 2 泊 3 日でのプログラムを検討しておりました。また、献身者が減少していることを踏まえて、西南学院大学神学部がある福岡での大会開催であるので、献身の思いを持っておられる方に参加をして頂いて、神学部の教授たち、神学生たちと交流する時を持ち、神学部について知ってもらう事なども検討しておりました。

しかし、新型コロナウィルス感染症の世界的な感染拡大が続く中で、今年 3 月に全国壮年会連合の定期総会を書面総会で行うことが決定されたことを受けて、全国壮年大会もインターネット配信での大会開催に切替えて、大会プログラムなどの大幅な見直しを行いました。

そして、三つ目の危機は、大会をインターネットで開催するにあたり、「通信エラーを発生させない」ということが、大きな問題としてその対策を様々に検討する事となりました。もし、大会本部で通信エラーを発生させてしまえば、参加されている方々は、その復旧のために何時間も待たされる事態になることを大変に危惧いたしました。Zoom 会議を何度が経験しておりましたが、300名近い方々が参加された時に、大会の始めから終わりまで無事に開催できるのか、今回の大会運営においては最大の危機と考えて準備を進めてまいりました。そのために、インターネット回線は2系統を用意し、主題講演者の奥村敏夫牧師の釧路教会の通信環境の整備も、帯広教会の西島兄にご協力を頂き行いました。特に一番心配したのは、３００名の方々が Zoom 会議に参加した状態で、講演の動画を画面共有して時に、通信エラーが発生してしまうのではないか、ということでした。その対策として、講演者の方々に事前に講演を録画頂いて、それを YouTube にアップして皆さんに事前に見て頂くということに致しました。また、大会の１週間前には５０名の参加者の方々にご協力を頂いて予行演習を行って、通信エラーが発生しないかのテストを行いました。そこで、通信エラーが発生するようであれば、講演動画の画面共有は取り止めて、大会用の WEB サイトからリンク先にアクセスするように対策を準備しておりました。しかし、予行演習で通信エラーが発生しませんでしたので、画面共有で講演動画の再生を行いました。

講演動画を事前に YouTube にアップして、見て頂くように参加登録者にメールでご案内をさせて頂きましたが、それが思いもかけない広がりをもたらしました。7 月当初の参加登録者数は 30 名ほどでしたが、講演動画をアップして以降はどんどんと参加登録者数が拡大していきました。事前に見て下さった方々が、同じ教会や他教会の方々にもご紹介をして下さったことで、参加登録者が増えていったと思われます。また、大会終了後も、その動画を見ることが出来ますので、その後も多くの方々が見て下さったお陰で視聴回数も増え続けております。この動画は、2022 年 3 月まで見ることが出来るようにしたいと考えております。

また、西南学院大学神学部の最終学年の神学生たちの証しも、神学生たちに御協力を頂いて動画を作成してアップしていますが、それぞれの神学生のことが良く分かり、牧師招聘を考えておられる教会伝道所の参考になる事と思います。また、それらを見て献身の思いが与えられる方が起こされるように祈っております。

新型コロナウィルス感染症の世界的な感染拡大のために、今回の大会は当初考えていたことが、大きく覆させて実施することになりしたが、その事を通して様々な恵みに与りましたことを感謝いたします。インターネット配信での大会に切替えたことで、全国の教会伝道所から参加して頂くことが出来ました。また、動画を YouTube にアップしたことで、参加者以上に多くの方々に見てもらう事が出来ております。そして、3 つの神学校の現状と取り組みについても、知って貰えることが出来ます。西南学院大学神学部の最終学年の神学生たちの証しも見てもらうことが出来、それらを見て献身者が与えられることを願っております。「万事が益となるように共に働く」神様の御業を見せて頂く思いでありました。私たちが置かれている現状は、厳しいものがありますが、そのような中にあっても、イエス・キリストの名によって立ち上がる教会形成と福音伝道の働きに努めて参りましょう。

この大会のために多くの方々のご協力があったからこそ、この大会が実現できたことを心から感謝申し上げます。

「第 56 回全国壮年大会 in 福岡」Zoom での開催を感謝して

全国壮年会連合会長　山田誠一

今年の全国壮年大会は初めて Zoom によるインターネット配信で行われました。これは私たちが望んだ事ではなくコロナ感染拡大の中、こうせざるを得ない最善の方法だったと思います。実行委員会の皆さまの真剣な取り組みとご努力により 300 人を超える参加者、配信をご覧になった方々がおられたと伺い大変嬉しく思っております。ほぼ一日を費やしてハードな大会でした。少し疲れを感じる方もおられたかと思いますが、もともとは 3 日間の日程で行う事を凝縮したものですのでご容赦ください。

さて、その凝縮された内容を確認してみますと。

・11:00～　主題講演　『伝道の裾野を拡げる』～教会の活性化の一つの試み～
　　講師: 奥村敏夫先生(釧路キリスト教会牧師)

・13:00～　講演②　『教会の現状とこれからの協力伝道』
　　講師: 中田義直先生(日本バプテスト連盟常務理事)

・14:00～　講演③　『3 つの神学校の現状と、伝道者養成を考える』
　　メイン講演講師: 濱野道夫教授(西南学院大学神学部長)
　　九州バプテスト神学校・東京バプテスト神学校からのアピール

・15:25～　全国壮年会連合『書面による総会の報告』ほか

そして、大会のテーマは、

いまこそ、バプテストの“伝道スピリット”～伝道者養成を考える～

でした。皆さんはこの日の講演等を通して何を思い、何を考えたのでしょうか？　今、連盟では機構改革の討議を進めています。皆さんはこれにどのような関わりを持っておられますか？この事は連盟理事会や関係しているところにお任せなんでしょうか。機構改革の目指しているところは、これからの日本バプテスト連盟の主体となっていくのは諸教会であり、そこに在籍する私たちすべての信徒(牧師・教役者も含む)です。　今回のテーマとなっている『伝道者養成を考える』事も全ての壮年にかかってくるのです。

現在、機構改革の一つのテーブル「これからの伝道者養成検討委員会」で話し合いがもたれています。どうぞ、皆さんの声を全国壮年会連合役員まで届けてください。これからの日本バプテスト連盟のあり方について主体的に祈り、考えてください。共に、主から集められた働き人として歩んでいきたいと願っております。

今回の大会を整えリードしてくださった福岡地方連合壮年会の皆さんと実行委員会の方々、奏楽や講演の字幕設定を担当して下さった女性会の方々に心より御礼を申し上げます。また、参加してくださった全ての方に感謝します。来年は北海道です。すでに北海道壮年大会実行委員会が動いて準備をしております。そろそろ皆さんで集いあっての大会としたいと願っています。北海道実行委員のお働きのためにもお祈りください。

2021年度　日本バプテスト連盟　全国壮年会連合総会　議案・資料

文書による総会を実施、2021年８月１６日(月)投票締切

2021年８月２０日(金) 連盟事務所にて開票、８月２１日(土)壮年大会の中で結果報告

（投票結果の開票日を総会期日とする）

議案NO.	議　　案	頁	説明担当者
議案 1	2021年度総会議長選任の件		山田会長
議案 2	監査加山文規氏辞任による後任選任の件		山田会長
議案 3	第57回(2022年度)全国壮年大会担当地方連合の件		豊永事務局長
議案 4	2020年度全国壮年会連合活動報告・決算報告・監査報告に関する件 1）2020年度全国壮年会連合活動報告 資料：2020年度神学校献金・会費実績一覧 2）2020年度全国壮年会連合一般会計決算報告 3）2020年度全国壮年会連合奨学金委員会活動報告 4）2020年度日本バプテスト連盟神学生奨学金会計収支報告 資料：日本バプテスト連盟神学生奨学金会計決算報告 5）2020年度監査報告		山田会長
議案 5	2022年度神学校献金（神学生奨学金献金）目標額設定の件		三室副会長
議案 6	規約改定の件　1）壮年会連合規約改定の件 2）壮年会連合規約細則改定の件 3）奨学金の給付及び貸与額等に関する細則改定の件		山田会長 山田会長 篠田奨学金委員長
議案 7	2021-2022年度全国壮年会連合活動計画案の件		山田会長
議案 8	2021年度全国壮年会連合一般会計修正予算案及び 2022年度全国壮年会連合一般会計予算案の件		高井会計
議案 9	2021-2022年度全国壮年会連合奨学金委員会活動計画の件 2022年度全国壮年会連合一般会計予算案の件		篠田奨学金委員長
議案 10	2021年度全国壮年会連合奨学金会計修正予算案及び 2022年度全国壮年会連合奨学金会計予算案の件		田口奨学金会計
議案 11	2022-2023年度全国壮年会連合奨学金委員長選挙の件 （奨学金委員の紹介）		選挙管理委員長
議案 12	2022-2023年度全国壮年会連合役員選挙の件 （事務局長、会計、書記の紹介）		選挙管理委員長
議案 13	第58回(2023年度)全国壮年大会担当地方連合の件		豊永事務局長
議案 14	第57回(2022年度)総会議長の件		豊永事務局長

２０２１年度全国壮年会連合定期総会議案書への質問と回答　2021/7/12　全国壮年会連合役員会

○今回お送りしました議案書に対して、１つの教会（神奈川地方連合：洋光台キリスト教会、連絡責任者森三樹氏）から３種６件の質問が寄せられました。以下に質問の内容と、役員会からの回答を示します。

○質問１　議案５（献金目標額）および議案１０（奨学金会計予算案）

1-1　一般的には、目標額＝予算額であると認識しています。議案の目標額と予算額が違っていることは、どう理解すればいいのか？

⇒この質問は、これまでにも総会の中で何度か質問を頂いたことがあり、その時にも以下のように回答してきました。

献金の目標額は、私たちは神学校献金を推進する運動体であることから、目標とする状態（例えば２５名の神学生に貸与・給付する）を可能とする金額としてきました。一方予算の金額は予算管理上実態と大きな差が生じないような金額を、前年度実績を見ながら「実質基準」として使用してきました。目標額＝予算額とすれば、両者に差異がないという意味ではいいのですが、献金推進のための目標額と予算管理上の収入となる献金額は使い分けてきました。

これまでも議場でこのように説明し、理解を頂いてきましたのでご了解下さい。

1-2　目標額と予算額の差２００万あるいは５００万はどこに計上されていますか？

⇒目標額と予算額の差額は、どこにも計上していません。

○質問２　議案１０（奨学金会計予算案）

2-1　記載のある 2020 年度、21 年度、22 年度、収入と支出の差が約 1000 万円あり、結果として繰越金が約 1000 万円ずつ増えています。収入のおよそ半分が支出されずに、繰り越されるのは、会計として正常のようには思えませんが、予算の考え方をお示し下さい。

⇒奨学金会計は、奨学金の返還期間が平均で７～８年、かつ一定期間内に規定（１種の２割）の金額を返還したら、残額は償却することになっています。そのため、議案書３３ページのフローベースでの繰越金だけでなく、議案書１８ページのストックベースの貸借対照表の資本の部にある「次年度繰越収支差額」に示されている金額にも注目していく必要があります。この繰越金は 2018 年度から約 7000 万円、6100 万円、5500 万円と減少中です。従って３３ページのデータだけで判断することは出来ないことをまずご理解下さい。

役員会では、この両方のデータを分析し今後について考えているところです。

2-2　何かの目的のために、繰越金を増やすのであれば、その何かの目的を科目として計上することや、（注）等で明示することがあると良いのではと思われますが、考えをご教示下さい。

⇒この問題を検討していくためには、今後神学生の数がどう推移していくのか等の見通しとともに、神学校献金を現在のように神学生の学びと生活を支える用途のみとするか、等の課題について検討を加え、必要なら奨学金規程を改定する作業が必要になります。ただし、奨学金制度の改

定は同制度の責任主体である連盟理事会と運営委託を受けている全国壮年会連合との協働作業となります。なお、規程の改廃は、連盟理事会の意向を徴することが明記されています。
今連盟では機構改革の検討が進行中ですが、壮年会連合のメンバーも加わって伝道者養成について議論しています。その進行状況については適宜皆さんにお知らせしたいと考えています。状況が変化したらすぐに、壮年会連合だけで修正が出来る訳ではないこともご理解下さい。

2-3　収入の半分が支出されずに繰り越すのではなく、新たな働き（支出）を考えたり、収入目標を下げたりすることが、健全は会計ではないかと思う。考えを示して下さい。
⇒前の２項目で説明した状況であることでご理解頂けるかと思います。

○質問３　議案５（２０２２年度神学校献金目標額）
議案の提案理由４行目に「現状に合わせろ」との声がある、との表現があるが、何か闘争をしているように感じ、議案書にふさわしくない表現と思う。実際に議場等でそのような言葉遣いがあったのでしょうか？
⇒議場等でこのような表現で意見が出されということではありませんが、数年前から出始めたこの意見は、少しずつ強まっているかなと役員会では捉えていることを、このような表現で表したものです。不快な思いを抱かせるということであれば今後は表現の仕方に気をつけます。

以上

≪２０２１年度全国壮年会連合定期総会　書面決議開票結果一覧≫　　2021/8/20

代議員登録数：２０１、投票総数：　１６０　、うち無効数：０　　（票数）　　結果

議案番号	議　　案	賛成	反対	保留	
1	２０２１年度総会議長選任の件　　堂前剛志氏（札幌）	157	0	3	承認
2	監査加山文規氏辞任による後任選任の件　　高良研一氏（恵泉）	157	0	3	承認
3	第57回(2022年度)全国壮年大会担当地方連合の件（北海道地方連合）	157	0	3	承認
4	2020年度全国壮年会連合活動報告・決算報告・監査報告に関する件 1)2020年度全国壮年会連合活動報告 資料：2020年度神学校献金・会費実績一覧 2)2020年度全国壮年会連合一般会計決算報告 3)2020年度全国壮年会連合奨学金委員会活動報告 4)2020年度日本バプテスト連盟神学生奨学金会計収支報告 資料：2020年度日本バプテスト連盟神学生奨学金会計決算報告 5)2020年度監査報告	157	0	3	承認
5	2022年度神学校献金(神学生奨学金献金)目標額設定の件　2,500万円	145	5	10	承認
6	規約改定の件				
	1)壮年会連合規約改定の件 ＊	156	1	3	承認
	2)壮年会連合規約細則改定の件 ＊	157	0	3	承認
	3)奨学金の給付及び貸与額等に関する細則改定の件	156	0	4	承認
7	2021-2022年度全国壮年会連合活動計画案の件 資料：2021-2022年度全国壮年会連合活動カレンダー	157	0	3	承認
8	2021年度全国壮年会連合一般会計修正予算案及び2022年度 全国壮年会連合一般会計予算案の件	157	0	3	承認
9	2021-2022年度全国壮年会連合奨学金委員会活動計画の件	157	0	3	承認
10	2021年度全国壮年会連合奨学金会計修正予算及び2022年度 全国壮年会連合奨学金会計予算案の件	156	0	4	承認
11	2022-2023年度全国壮年会連合奨学金委員長選挙の件				
	委員長：北村慎二（宝塚）	156	0	4	承認
12	2022-2023年度全国壮年会連合役員選挙の件				
	会長　：山田誠一（大井）	156	0	4	承認
	副会長：豊永義典（川崎）	155	1	4	承認
	監査　：高良研一（恵泉）	156	0	4	承認
	堤　秀幸（福岡西部）	156	0	4	承認
13	第58回(2023年度)全国壮年大会担当地方連合の件　（東京地方連合）	157	0	3	承認
14	第57回(2022年度) 総会議長の件　（東京地方連合から出す）	157	0	3	承認

＊　議案６　1）、２）は2/3以上の多数決が必要である。

以上の議決を明確にするため、議長並びに書記は、以下に署名押印する。

2021年度全国壮年会連合定期総会　議長団

議　長　堂前剛志　印

副議長　牧口昌嘉　印

書　記　堤秀幸　印

書　記　井東健男

以上

2021年度　定期総会代議員登録者

地方連合	教会略称	氏名	しめい
代議員登録　合計201名			
北海道	旭川	田森 茂基	たもり しげき
北海道	旭川	松浦 武	まつうら たけし
北海道	旭川	植山 圭史	うえやま けいし
北海道	旭川東光	藤原 直之	ふじわら なおゆき
北海道	帯広	雨宮 秀行	あまみや ひでゆき
北海道	札幌	堂前 剛志	どうぜん たかし
北海道	札幌	浦瀬 祐司	うらせ ゆうじ
北海道	札幌	小林 俊一	こばやし しゅんいち
東北	鮫	遠藤 守	えんどう まもる
東北	盛岡	飯島 隆	いいじま たかし
東北	大富	小田　衛	おだ まもる
東北	大富	伊東 信吉	いとう しんきち
東北	仙台長命ヶ丘	古川明	ふるかわあきら
東北	仙台長命ヶ丘	金丸真	かなまるまこと
東北	仙台	中山 晴久	なかやま はるひさ
東北	仙台	八巻 正之	やまき まさゆき
東北	仙台	向井田 洋	むかいだ ひろし
東北	山形	杉山 修一	すぎやましゅういち
東北	山形	伊藤 俊藏	いとうとしぞう
東北	山形	山口 宜由紀	やまぐちのりゆき
東北	福島主のあしあと	大島 博幸	おおしま ひろゆき
東北	福島主のあしあと	渡邉 憲一	わたなべけんいち
東北	郡山ｺｽﾓｽ通り	斎藤健生	さいとうたけお
東北	郡山ｺｽﾓｽ通り	斎藤義男	さいとうよしお
北関東	太田	石井 努	いしい つとむ
北関東	太田	長尾 誠	ながお まこと
北関東	太田	林 健一	はやしけんいち
北関東	前橋	今野 敦	こんの あつし
北関東	前橋	下舞 賢一	しもまい けんいち
北関東	前橋	水尾 謙作	みずお けんさく
北関東	高崎	高井透	たかいとおる
北関東	日立	井伊 肇	いい はじめ
北関東	日立	乙木 洋平	おとき ようへい
北関東	宮原	飯野 實	いいの みのる
北関東	宮原	足立 智幸	あだち ともゆき
北関東	浦和	原田潔	はらだきよし
北関東	浦和	二見眞義	ふたみまさよし
北関東	浦和	岡田利男	おかだとしお
北関東	所沢	秦 健一郎	はた けんいちろう
北関東	所沢	大場 和夫	おおば かずお
北関東	所沢	松永 政弘	まつなが まさひろ
北関東	西川口	戸田 浩司	とだ こうじ
東京	常盤台	栗山 義亜	くりや まよしあ
東京	常盤台	工藤 征治	くどう せいじ
東京	常盤台	和田 一夫	わだ かずお
東京	目白ヶ丘	高地 輝夫	たかち てるお
東京	目白ヶ丘	松田 俊介	まつだ しゅんすけ
東京	目白ヶ丘	根岸 靖明	ねぎし やすあき
東京	市川大野	栗本 岳尚	くりもと たけひさ
東京	市川大野	志築 正治	しずき まさはる
東京	市川大野	富田 愛世	とみた まなせ
東京	千葉	元川信治	もとかわしんじ
東京	千葉	永瀬道臣	ながせみちおみ
東京	千葉	酒井信生	さかいのぶお
東京	青梅あけぼの	相山 憲司	あいやま けんじ
東京	青梅あけぼの	兵頭 穂高	ひょうどう ほたか
東京	青梅あけぼの	田中 太郎	たなか たろう
東京	恵泉	竹下 達也	たけした たつや
東京	品川	山田雅之	やまだまさゆき
東京	品川	○田　恒	
東京	品川	村中範光	むらなかのりみつ
東京	大井	木村 均	きむら ひとし
東京	大井	山田 誠一	やまだ せいいち
東京	大井	加藤 誠	かとう まこと
神奈川	川崎	豊永 義典	とよなが よしのり
神奈川	川崎	渡邉　亶	わたなべ まこと
神奈川	川崎	安里 耕二	あさと こうじ
神奈川	横浜ﾆｭｰﾗｲﾌ	光安 鋭輔	みつやす たいすけ
神奈川	横浜ﾆｭｰﾗｲﾌ	小平 公憲	こだいら きみのり
神奈川	横浜ﾆｭｰﾗｲﾌ	田坂 元彦	たさか もとひこ
神奈川	横浜JOYﾊﾞﾌﾟﾃｽﾄ	伊東 昌彦	いとう まさひこ
神奈川	横浜戸塚	近藤芳男	こんどうよしお
神奈川	横浜戸塚	濱崎信郎	はまざきのぶお
神奈川	横浜戸塚	湧上靖	わくがみやすし
神奈川	洋光台	森 三樹	もり みき
神奈川	洋光台	松井 清	まつい きよし
神奈川	洋光台	椎名 泉	しいな いずみ
神奈川	港南めぐみ	古家 寛務	ふるや ひろむ
神奈川	港南めぐみ	神山 武	かみやま たけし
神奈川	逗子第一	杉野 省治	すぎの しょうじ
神奈川	平塚	平野 健治	ひらの けんじ
神奈川	相模中央	花方 健	はながた けん
神奈川	相模中央	岡澤 幸一	おかざわ こういち
神奈川	綾瀬小園	石渡 一弘	いしわたり かずひろ
神奈川	綾瀬小園	河野 修	かわの おさむ
西関東	三島	本田 英一郎	ほんだ えいいちろ
西関東	静岡	金子 鉄平	かねこ てっぺい
西関東	静岡	松坂 克世	まつざ かかつよ
西関東	静岡	柳下 龍司	やぎした りゅうじ
西関東	浜松	松岡 忠隆	まつおか ただたか
西関東	浜松	須河内 彰	すごうち あきら
西関東	浜松	古賀 和夫	こが かずお
中部	金沢	杉山 望	すぎやま のぞみ
中部	金沢	田口 昭典	たぐち あきのり
中部	金沢	河原 猛	かわはら たけし
中部	富山小泉町	関 丙俊	みん びょんぞん
中部	富山小泉町	坂上 幸男	さかがみ さちお
中部	福井	土肥 幸造	どひ こうぞう
中部	福井	平良 憲誠	たいら けんせい
中部	名古屋	富士栄　廸	ふじえたかし
中部	瑞穂	吉田 和夫	よしだ かずお
中部	瑞穂	今井 公彦	いまい きみひこ

中部	瑞穂	仙敷 正俊	せんしき まさとし
中部	南名古屋	山川康夫	やまかわやすお
中部	四日市	山内 章彦	やまうち あきひこ
中部	各務原	五島 寿	ごとう ひさし
中部	各務原	長谷 幸雄	ながたに ゆきお
中部	各務原	洞田 雄亮	ほらだ ゆうすけ
関西	京都	石居盾夫	いしいたてお
関西	和歌山	尾上 等	おうえ ひとし
関西	和歌山	久保田 信人	くぼた のぶひこ
関西	和歌山	広重 卓	ひろしげ たかし
関西	宝塚	古田 晴彦	ふるた はるひこ
関西	宝塚	北村 槇二	きたむら しんじ
関西	宝塚	稲川 仁	いながわ ひとし
関西	神戸西	豊蔵 広泰	とよくら ひろやす
関西	神戸西	原田 英幸	はらだ ひでゆき
関西	神戸西	竹市 正彦	たけいち まさひこ
関西	神戸伊川	鮫島 能章	さめじま よしあき
中四国	岡山	草刈 隆幸	くさかり たかゆき
中四国	岡山	西原 寿	にしはら ひさし
中四国	岡山	鳥井 正也	とりい まさや
中四国	緑の牧場	田中 佳幸	たなか よしゆき
中四国	広島	石倉 央	いしくら なかば
中四国	広島	寺見 俊昭	てらみ としあき
中四国	広島	山田 寛人	やまだ かんと
中四国	高松常磐町	松本 一幸	まつもと かずゆき
中四国	高松常磐町	植村 克己	うえむら かつみ
中四国	高松常磐町	梶井 義郎	かじい よしろう
中四国	高松太田	武井 邦夫	たけい くにお
中四国	高松太田	大竹 敏生	おおたけ としお
中四国	高松太田	真鍋 芳樹	まなべ よしき
中四国	道後	松田 裕二	まつだ ゆうじ
中四国	道後	宮本 恵	みやもと めぐみ
北九州	門司港	石橋 貞男	いしばし さだお
北九州	若松	永町 友恵	ながまち ともえ
北九州	若松	中村 熙	なかむら ひろし
北九州	若松	吉田 光慶	よしだ みつよし
北九州	芦屋	尹　正鉉	ゆん じょんひょん
北九州	芦屋	吉津 弘	よしず ひろし
北九州	大分	石井 達	いしい さとし
福岡	福間	田宮宏介	たみやこうすけ
福岡	福間	野口真	のぐちまこと
福岡	福間	兼行一弘	かねゆきかずひろ
福岡	那珂川	藤　寿	とうひさし
福岡	福岡	上山 清郎	うえやま せいろう
福岡	福岡	小川 宏嗣	おがわ ひろつぐ
福岡	鳥飼	三田 照雄	みた てるお
福岡	鳥飼	中富 勇夫	なかとみ いさお
福岡	鳥飼	今村 光利	いまむら みつとし
福岡	西南学院	踊 一郎	おどり いちろう
福岡	西南学院	三室 日朗	みむろ にちろう
福岡	西南学院	相模 裕一	さがみ ゆういち
福岡	福岡西部	諏訪田光弘	すわだみつひろ
福岡	福岡西部	大杉正樹	おおすぎまさき

福岡	福岡西部	堤秀幸	つつみひでゆき
福岡	姪浜	石田 孝	いしだ たかし
福岡	姪浜	柴田 博文	しばた ひろふみ
福岡	姪浜	奥村 献	おくむら ささぐ
福岡	野方	小林 鐵志	こばやし てつし
福岡	田隈	篠田 裕俊	しのだ ひろとし
福岡	平尾	中西 英二	なかにし えいじ
福岡	平尾	馬場 和幸	ばば かずゆき
福岡	平尾	森　崇	もり たかし
福岡	長住	小林 洋一	こばやし よういち
福岡	長住	井寺 一成	いでら かずなり
福岡	長住	大平 元昭	おおひら もとあき
西九州	佐賀	山崎誠	やまざきまこと
西九州	佐賀	野口聖	のぐちたかし
西九州	佐賀	畑瀬智幸	はたせともゆき
西九州	嬉野	橋爪彰博	はしづめあきひろ
西九州	嬉野	橋爪義行	はしづめよしゆき
西九州	相浦光	田代秀武	たしろひでたけ
西九州	相浦光	野中滋生	のなかしげお
西九州	大村古賀島	川久保 拓也	かわくぼたくや
西九州	大村古賀島	計屋 紘信	はかりや ひろのぶ
西九州	大村古賀島	計屋 知彰	はかりや ともあき
西九州	長崎	木村 幸治	きむら こうじ
西九州	長崎	高橋 實	たかはし みのる
西九州	長崎	仲村 吉広	なかむら よしひろ
西九州	五島	中村 秀一	なかむら ひでかず
南九州	有明	若杉達生	わかすぎたつお
南九州	菊池シオン	濱川 耕一	はまかわ こういち
南九州	八代	桑原伸良	くわばらのぶよし
南九州	熊本南	朴 哲浩	ぱく ちょるほ
南九州	延岡	松田 良明	まつだ よしあき
南九州	宮崎	中條 信治	ちゅう じょうしんじ
南九州	宮崎	飯田 博美	いいだ ひろみ
南九州	国分	村上 光信	むらかみ みつのぶ
南九州	国分	マウ マウタン	まう まうたん
南九州	伊集院	美園 和彦	みその かずひこ
南九州	伊集院	馬渡 健太郎	まわたり けんたろう
南九州	枕崎	地頭園達男	じぞうどのたつお
南九州	枕崎	麦野　賦	むぎのみつぎ
南九州	鹿児島	田淵 亮	たぶち りょう
南九州	鹿児島	加藤 寛一	かとう かんいち
南九州	大牟田ﾌﾚﾝﾄﾞｼｯﾌﾟ	叶　義文	かのうよしふみ
南九州	大牟田ﾌﾚﾝﾄﾞｼｯﾌﾟ	城野 俊行	じょうのとしゆき
南九州	大牟田ﾌﾚﾝﾄﾞｼｯﾌﾟ	眞柄 光久	まがらみつひさ
南九州	那覇新都心	岡田 有右	おかだ ゆうすけ
南九州	羊の群れ	大森 俊明	おおもり としあき

第 56 回全国壮年大会　プログラム

■開会礼拝（10 時～）　司会：今村　光利兄

・前　奏　奏楽：福永　聡子姉

・開会宣言　藤　寿　大会実行委員長

・賛　美　新生讃美歌５４１番　一　同

・祈　り　司会：今村　光利兄

・聖　書　エゼキエル書１８章３０～３２節　同　上

・説　教　「新しい心と、新しい霊」　片山 寛 教授（西南学院大学神学部）

・賛　美　新生讃美歌３３８番　一　同

・後　奏　奏楽：福永　聡子姉

■開会挨拶（10 時 30 分～）

・挨　拶　全国壮年会連合　山田 誠一 会長

・「これからの全国壮年会連合が目指すもの」　同　上

・挨　拶　日本バプテスト連盟　加藤 誠 理事長

◇休憩（５分）

■主題講演（11 時～）

・「伝道の裾野を拡げる～教会の再活性化の一つの試み～」

講師：奥村 敏夫 牧師（釧路キリスト教会）

司会：鈴木 牧人 先生（姪浜バプテスト教会）

質疑（Zoom）

■昼食休憩（12 時～）

後半 20 分（ビデオ「卒業年次の神学生たちの証し」）

■講　演②（13 時～）

・『教会の現状とこれからの協力伝道について』

講師：中田 義直 常務理事（日本バプテスト連盟）

司会：鈴木 牧人 先生

・質疑（Zoom）

◇休憩（５分）

■講　演③（14 時～）

「３つの神学校の現状と、伝道者養成を考える
～伝道者養成の視点から、教会形成を考える～」

・九州バプテスト神学校
・東京バプテスト神学校
・西南学院大学神学部　　濱野道雄神学部長（メイン講師）

司会：鈴木 牧人 先生
質疑（Zoom）

◇休憩（５分）

■全国壮年会連合関係のプログラム（15 時 30 分～）

司会：伊原 幹治 兄（福岡ベタニヤ村教会）

○「書面による総会の報告」（山田誠一全国壮年会連合会長）

○新会長、新副会長、新奨学金委員長の挨拶。

○次回開催地・北海道地方連合壮年会からのアピール。
北海道地方連合壮年会会長：堂前 剛志 兄（札幌バプテスト教会）

■閉会礼拝（16 時５分～）（Zoom 会議でライブ配信）

司会：伊原　幹治兄
前　奏　　奏楽：福永　聡子姉
賛　美　　新生讃美歌５３４番　　一同
祈　り　　司会：伊原　幹治兄
聖　書　　エフェソの信徒への手紙２章１４～２２節　　同上
説　教　「共に建てられる神の住まい」　加山 献 牧師（早良キリスト教会）
応答讃美　新生讃美歌３８４番　　一同
後　奏　　奏楽：福永　聡子姉
閉会宣言　　藤　寿 大会実行委員長

★★★　16 時 30 分に終了　★★★

開会礼拝説教　「新しい心と新しい霊」（要約）

片山　寛　先生（西南学院大学神学部教授／和白バプテスト教会）

聖書　エゼキエル書 18 章 30－32 節　30 それゆえ、イスラエルの家よ。わたしはお前たちひとりひとりをその道に従って裁く、と主なる神は言われる。悔い改めて、お前たちのすべての背きから立ち帰れ。罪がお前たちをつまずかせないようにせよ。31 お前たちが犯したあらゆる背きを投げ捨てて、新しい心と新しい霊を造り出せ。イスラエルの家よ、どうしてお前たちは死んでよいだろうか。32 わたしはだれの死をも喜ばない。お前たちは立ち帰って、生きよ」と主なる神は言われる。

この 2 年間、私たちはいろんな意味で、本当に苦しい中で、私たちは耐えてきた。教会は、この世界の多くの人々と共に、この大規模な自然災害の苦しみを共にしてきたのであります。むしろ今はまだ私たちはその苦しみのどん底にあるとさえ言えるかもしれません。しかし同時に、私はその苦しみの先にほのかな希望が見えてきた、と申し上げたい。エゼキエル書 18 章には、苦難の中にいるイスラエルの民に対して、今こそ新しく始めなさい、という神さまの言葉が書かれています。「新しい心と新しい霊」を造りだせ。新しいものが必要だ。今までの実績により頼んで、まだこれでやっていけると考えたり、逆に現状のひどさに絶望して、もう駄目だと考えたりしてはならない、「新しい心と新しい霊」を造りだして、新しく出発するのだ、というのです。18 章の最初のことわざのように、お父さんがすっぱいぶどうを食べたからと言って、子どもが顔をしかめるというようなことはない。つまり、先祖の罪で子どもが因果応報で苦しむということは、もう決してない。だからあなたがたは新しい気持で出発するのだ、そう神さまは言っておられる。そのような過去からの連鎖は断ち切って、「新しい心と新しい霊」を造りだせ。30 節の後半で最近出た『聖書協会共同訳聖書』では「立ち帰れ。すべての背きから立ち帰れ。そうすれば過ちはあなたがたのつまずきとはならない。」　目的論的な読み方ではなくて、端的にただ「神さまへと立ち帰れ」と命じられている。そうすると、結果としてどのような過ちも、つまずきとはならない。そういうのです。これからも失敗はするかもしれないが、それが破滅へと至ることはない。今やあなたがたは、神さまから、目をそむけてはいないからだ。そういうのです。これは従来の訳よりもずっと積極的に、恐れず苦難に立ち向かうことをすすめています。罪に陥るんじゃないかというような心配はしないで、神さまへと立ち帰りなさい。自分の力に頼らず、神さまのお命じを守りなさい。神さまに希望があるのだ。だから神さまへと立ち帰りなさい。そして新しい心と、新しい霊を造り出しなさい。そのことが私たちに命じられております。私は、明るい光が見えてきた、と申しましたが、たぶん私たちは、これからも、コロナを初めとする感染症と長らく共存してゆく世界を準備していかねばならないだろう、と思います。苦難はまだ続くかもしれない。ただ、私たちに聖書の言葉が告げ

ているのは、どのような苦難の中でも、神さまに立ち帰って、神さまに救いを求めつつ生きていこう、ということであります。神さまにこそ希望がある。私たちは今でも暗闇の中にいる。にもかかわらず私は、この闇の向こうに光が見えてきた、と申しました。それは、私たちの救いは神さまにある、ということを確認できると思うからであります。医療技術が人間を救うのではありません。私たちを救うのは、神さまです。私たちは、今日一日だけですけれども、Zoomという新しい手段を使って、お互いに意志の疎通をする、ひとつの小さな、そして新しい実験をいたします。こういう仕方で、どうやってお互いへのいつくしみと思いやりを伝えるのか。どうやって真剣に議論を戦わせるのか。それは、言うなればひとつの「新しい心と新しい霊」を造る試みであると思います。その試みを私たちは始めた。そこに私たちは、夜明けに向かう神さまからの光を見るのであります。このささやかな実験がうまくいきますように、そして私たちが、私たちを結びつけてくださる御方、父なる神さまへの感謝をお互いに確認することができますように。そして、それぞれが、今はコンピュータの画面に向かってではありますけれども、その画面の向こうにいる兄弟姉妹を親しく感ずることができるような、新しい霊を受けることができますようにお祈りをいたしましょう。
以上

主題講演「伝道の裾野を拡げる～教会の再活性化の一つの試み～」

奥村敏夫（釧路キリスト教会牧師）

新型コロナ感染症の感染拡大の影響下にある中で、今回の全国壮年大会は初めてオンラインでの開催となりました。また、新型コロナ危機は、個人も教会も様々な形で影響を受けております。私たちは自分の教会のことだけでなく、日本の諸教会やまた世界中の諸教会のことやっぱり心配になり思いを馳せざるを得ません。

私は、こんな状況下の中で、いつも私の頭から離れない言葉があります。「たといそうでなくても」安利淑（あんいんしゅく）さんが、戦時下でクリスチャンであるという理由で、軍部によって投獄され、長い拘禁状態に置かれた証言です。

「たといそうでなくても」。私は、文脈は違うと思いますけれども、この時代、このキリスト教会がどのように人々に受け入れられ、人々と共にあり、人々の心を心と出来ているだろうか、という危機感と共に、信仰を持つ者としてどう歩んだら良いのかを考えさせられています。

日本バプテスト連盟（以下、「連盟」と略する）の教勢を見た時に、この 10、年 15 年の間に相当な急角度で全体が減少しています。私たちも、また他の教派と共にこの非常に厳しい冬の時代を今迎えていると言わざるを得ないと思います。多くの他教派が、教勢を落としている時期に、バプテストは踏ん張っていました。「バプテストが、伝道熱心な教派であること、そしてとりわけ壮年を始め信徒の方々が、本当に一人一人が伝道をして熱心だからこのようにキープできているのだ」という風にも他の教派の代表からお聞きしたことがあります。けれども時間の違いこそあれ、もうこの 10～15 年ほどの間に急速にそれが右下がりになっていることはもう皆さんよくご存知の通りです。

冬の時代を迎えた私たちはやっぱりこの時はしっかりと自己吟味をしていくべき時なのではないかというふうに思っております。私が若手牧師の頃、大谷恵護先生（大井教会元牧師）が、「徒労も失敗もできていない体たらくさ」と言われた事を覚えています。自分の教会を鋭いインサイトをもって振り返っておられる言葉です。昔、Angry Young Men と言われている人たちの間で、「怒りを込めて振り返れ」という言葉が一世を風靡した時代がありました。これらの言葉を思う時に、私たちは真剣に、今自分達のしていること、今まで自分たちが歩んできたそのことを怒りは込めなくて、もう一度振り返ってみる事が、個人も教会も非常に大事だと感じています。

釧路教会の取り組みについて一つのケーススタディとしてお話しさせて頂きます。私は、10 年間ほど札幌教会で牧者として仕えさせて頂きました。次の任地について祈って考えていた時に、「釧路キリスト教会は、冬に雪がたくさん降ってシバれて寒さの厳しい時には、時折礼拝出席がひとりになることがある。ひと冬に何回かそういうことがある」という話をたまたま私は耳にしました。その話を私の連れ合いも横で同じ時に聞いていました。それで、私たちは、もし呼んで頂けるなら釧路に行きたいね、と思い祈っていました。そんな時に、

釧路教会が総会の名において私達の教会の牧師として頂きたいという招聘状を届けて下さいました。

釧路教会行きが決まってから、改めて釧路市がある道東地区の諸教派の教会の現状は調べてみました。人口流出と産業の衰退の激しい、そして人口が毎年 3000 人規模で減っていく、この釧路の周辺では教会もまた閉鎖・解散がこの 30 年の間に相次ぎました。おおよそ 30 ぐらいあった教会が 、今では、15 ほどに減っております。消滅や合併によって、教会の数はなんと半分に減ったのです。

釧路教会に赴任して、信徒の方々と 1 年目にビジョンや夢を語り合いました。特に「開かれた教会」を私たちは目指していきましょう、と話し合いました。「教会の伝道」と言うと、時々周辺にチラシを撒いて「こんな特別な集会がありますから来てください」って言って教会の特別な集会か礼拝に人を集めるスタイルが多いのではないでしょうか。「開かれた教会」となるために、どんなことができるかということを色々話し合いました。 weekday Ministry として「英語に親しむ会」、「福祉連続講演会」等に取り組み始めたわけです。

そして、「すべては外から始まった」という事をご紹介いたします。私たちの教会では「四つの礼拝」というものを私たちの大事な共通の同等の礼拝として現在取り組んでいます。

最初の出会いは、私が赴任して最初の礼拝に、出席された厚岸（あっけし）町の多田さんご夫妻との出会いでした。牧場を経営しておられて牛がいるので年に 1～2 回ほどしか礼拝に出席できないとのことでした。それで、「月に一回でもいいからですから、一緒に牧場の方で礼拝をしませんか」。と申し出ました。それから、定期地区礼拝が始まり二人とも受浸され、7 年になります。2 番目の出会いは、弟子屈（てしかが）地区礼拝のことですけれども、礼拝に若いクリスチャンの夫婦が数回来られたのですが、「先生、申し訳ないんだけれど、ここまで来るのに片道二時間半ぐらいかかるのです。ここに来たいのですが、主人の体が休む暇がないので、もう来れません」とおっしゃったんです。それで、「もし良かったら月一回で良ければ、あなたのお家で集会をしませんか」と申し上げたら、「私の知り合いなどを誘っていいですか？」と言われて始まりました。約 1 年経って、いつも 10 人ぐらい集まったのですが、その方は転勤で帯広の方に移ることになりました。そこで、摩周観光文化センターの 2 階の部屋を借りて弟子屈地区礼拝をすることになりました。近隣の他教派の教会が全面的に協力をして下さいました。奏楽や賛美、PA 等を担当して下さり、本当に嬉しいことです。このごろは、15 人から 20 人の間ぐらいの出席者を見るようになりました。

3 番目の出会いは、英語礼拝です。ある日突然フィリピンの女性二人が教会を訪ねて来てくださって「ここは英語礼拝をしていますか？」と尋ねられたのですが、英語礼拝をしていなかったので、カトリック教会を紹介しました。その方々がカトリックの信者でもあったからです。後でカトリック教会の神父さんに聞きましたが「あの人たちは何回か来たけれど、もう来てないよ」ということでした。私は大変何か心に引っ掛かりを感じました。それで私

達は力量がないけれども、少々無理してでも英語礼拝を定期的にやろう、そういうふうに私たちは考えました。チラシを英語で作りそして分かる範囲の寮に配り、しかもよく調べてみると 150 人から 200 人近いフィリピンの人たちがこの釧路市周辺にはいることがわかりました。徐々に人が増えてきて一番多い時には 30 数人集まるようになりました。1 時間ほどの礼拝を持った後、一緒にフィリピンの人達と食事を共にしています。それが終わったら「分かち合い」の時間をします。教会員に呼びかけて、いろんな着るもの、あの暑いところから寒いところに来られるわけですから、アノラックやキルティングやジャンパーや、オーバーコートなど、日用品まで持って来てくださる人もいました。やがて、それらがほとんど少なくなった時に、私たちまだ会ったことのないような近所の人とか、色々な口コミで聞いた人達が「これ、もしよかったらフィリピンの人たちと分かち合っていただけませんか」と言ってそういう古着だとか日用品だとか、ある時には新品の品物を持ってきてくださいました。おおよそ 50 人近い教会周辺の方々が、まだ会ったことのないフィリピンの人たちのために一緒に心を寄せて下さったことは、私は教会の存在意義を確認して頂く上でも非常に大事なことだと思いました。

4 番目の出会いは、昨年の 5 月にマレーシアから宣教師ご夫妻をお迎えすることになりました。若い 30 歳前後の宣教師が、アイヌの人たちの権利を守り、文化を守り、言葉を守り、そういう人達とできたら福音を分かち合いたいという熱い思いを持っていらっしゃいました。今 1 年経ちますけれどももう一生懸命アイヌ語を学びそしていろいろな文化について、あるいは歴史について学んでいらっしゃいます。

そのうち私たちはマシュー先生・ダイアナ先生を通して少数民族のこと、あるいは私たちが「怒りを込めて振り返れ」とさっき申し上げましたけれど、私たちの負の歴史をしっかり見つめる機会となるようにと願っております。

最後に、「献身者とは、誰のことか」ということについて少しお話をしたいと思います。言うまでもなく私たちバプテストの教会の原点はやはり言うまでもなく万人祭司のあの宗教改革の流れを受けて設立されたことは言うまでもありません。

万人祭司という言い方もいいと思うんですけれど、私はむしろ「万人伝道者」と敢えて申し上げたい。牧師も伝道するけれど、信徒も伝道のフロントに立ち、伝道の第一線で教会の使命を担うのだという、そういう自覚抜きにして「私はバプテストでございます」というのは、それは言えないのではないか、という風に思っています。

クレッチマーという人だったでしょうか、「信徒は現代、冷凍保存されている」という言葉を語ったのを思い起こします。せっかくある可能性に富んだ素晴らしいその信徒の働きを教会の自覚や計画やあるいは牧師の認識が足りないために「冷凍保存されている」。そういう現状を私たちこそこの“冬の時代”、困難な時代にもう一度新たに捉え直して、そして伝道の局面を開いていきたいと思っております。

前回の全国壮年大会で、加藤誠先生もおっしゃっていましたが「献身者のいる群れからこそ牧師・宣教師の候補者達は生まれてくる」ということを思わされます。「教会が元気」っていうのはただ数が増えたら元気ということではないと思います。それは一人一人の信徒が大きい小さいは問題ではない、多い少ないも問題ではない。本当に喜んでキリストを伝え、キリストのことを分かち合い、キリストが目指されたその歩みを聖書からしっかり聞きながら、私たちが喜んで感謝して教会を形作っていく。この大会が何ほどかそういう大きなターニングポイントになれれば嬉しいと願っております。

講演②「教会の現状とこれからの協力伝道」
中田　義直（日本バプテスト連盟常務理事、宣教部長兼任／所沢教会）

「それで、兄弟たち、わたしたちは、あらゆる困難と苦難に直面しながらも、あなたがたの信仰によって励まされました。あなたがたが主にしっかりと結ばれているなら、今、わたしたちは生きていると言えるからです。」テサロニケの信徒への手紙一　３章７～８節

全国壮年会連合の皆さまには、伝道者養成の働き、特に神学生を支える神学校献金の推進と実務を担っていただいています。この重要な協力伝道の働きをおぼえて、心から感謝いたします。そして、この度は、大切な壮年大会で、講演の機会をいただき感謝いたします。

現在、日本バプテスト連盟（以下「連盟」と略する）は結成以来四回目の機構改革の時を過ごしています。また、この一年半、私たちは新型コロナ感染症の感染拡大により、様々な変化を強いられてきました。当たり前と思って行ってきたことが出来なくなるという経験をしてきました。

今、連盟は四回目の機構改革の時を歩んでいます。1 回目は、アメリカ南部バプテストの経済的支援からの自立を目指した改革、自給化を目指した改革です。それは教会、事務所に大きな影響を与えました。第 2 回目の機構改革は、新宿の旧事務所土地の売却益をベースにした資金、基金体制への移行です。第 3 回目の改革は、基金・資金によらない協力伝道を目指すための改革です。今回の四回目の改革は、いよいよ資金の終わりが見えてくる中で、教会から捧げられた献金によって協力伝道を行っていくための改革、目指すための改革から、実行するための改革です。「連盟主導から教会主導へ」というベクトルと「共にキリストを証しするために」という理念を掲げ、その理念を体現する改革を行っていきたいと願い、取り組んでいます。

そして連盟を形成する加盟教会の現状は、経済的な厳しさが増してきています。それと共に、高齢化により、これまで担ってきた教会の活動を担えなくなってきているという課題でもあります。近年の教勢の数値は、減少傾向にあります。この現実を受け止め、この中で何を教会は求められ、何をなすべきかを考えていくことも重要と考えています。

さて、「今」という状況を考えるときに、この一年半の新型コロナウィルス感染症の感染状況下にあって、私たちはこれまで経験したことのない状況の中を歩んでいます。この状況の中で教会の現状を考えるにあたっては個々の教会のケーススタディが良いのではないかと考えています。今年度のバプテスト誌の表紙は、「諸教会の今」を表紙としていくこととしました。

4 月は、相模中央教会の Web を用いた礼拝の様子です。感染予防のために、礼拝堂に集まっての礼拝が出来ない状況にあった時に、多くの教会伝道所で急遽取り組まなくてはいけなくなりました。5 月は平塚教会です。「平塚教会では月 1 回、会堂を利用し「こひつじ食堂（こどもも大人も利用できる地域食堂)」を始めました。地域の困窮や孤食の解消、市民同士の交流の場となっています。現在はコロナ危機のため、会食を控え、お弁当の販売（ 1 個 200 円）をし

ています。利用者は毎回増え続け、2 月は開始 40 分ほどで 100 食のお弁当を完売しました。この日も野宿者や子ども、近隣住民など、さまざまな方が利用されました。予想以上の需要に、教会の活動が地域、社会に必要とされていることを実感しています」。この働きは地域の方々の協力と支えをいただいているそうです。6 月は花野井教会での信徒の方の聖書を題材にした自由律俳句の紹介や、7 月は南小倉教会での「みんなの机」の取り組みと、ネットでの報告を通して地域の方々や、全国のからの商品の提供、そして 8 月は恵泉教会での結婚式での新郎新婦に贈る歌『カナの婚礼』（作詞：千野肇、作曲：藤田直彦）を、動画を撮ることになり、人数を分け、距離をとるなどの対策をしながら賛美のご様子。9 月号は江波教会の杉本拓也牧師就任式を、近隣教会である広島教会から会場の提供とオンライン配信（ Zoom）の協力をいただけることとなりました。また、連合の枠を越えた支援により、ライブ配信（ YouTube）も行えることとなりました。連合そして全国の教会・伝道所、牧師の推薦教会・研修教会から、およそ 145 名の方々が集まった様子が報告されました。

３１７教会・伝道所の中の 6 教会のケースですが、今、行われている教会の取り組みの具体には、教会の現状を知る視点が示されているのではないでしょうか。これから数年の後に、改めてこれらの出来事を振り返り、より広い視点での評価が行われるでしょう。そして、ここにこれからの協力伝道の在り方、ヒントが見いだされていくのではないでしょうか。

昨年来、私たちは強いられたパラダイムシフトを経験してきました。そして、その変化に対応するために、それまでの考えを変化させられる経験をしました。私は今から 3 年ほど前に「理事会はオンライン会議ですべきだ。時間的にも経済的にも有利だし、より多様な人が参加できる」といわれ、それに対して私は「それぞれの状況が異なるし、ネットを難しいと感じる人もいる。何より、直接会って話すことは大切だ」と反対意見を伝えました。しかし、今、Zoom を用いたネット会議での理事会、様々な会議を行っています。

今、経験している事々の中には、これまでそれは出来ない、それは無理だと考えてきたものもあるのではないでしょうか。

現在インターネットを用いた様々な取り組みに対して、インターネットでは参加できない人がいるというご意見をいただきます。その一方で、インターネットだから参加できましたという声も届いています。そして、江波教会の就任式では近隣教会が会場とインターネットの設備を提供し、機器の操作などのフォローもあったと聞きました。

また、教会が地域に対して何が出来るかと取り組みはじめた時に、その働きを地域の方々がサポートする、地域の協力を得て教会の働きがなされていくという出来事がありました。

今私たちが経験していることは一過性のもので、やがて 2019 年の頃の「当たり前」がもう一度私たちの「当たり前」になるのでしょか。それとも、今、直面している困難や戸惑いを通して、私たちは「これからの協力伝道」の姿を具体的に見いだし、構築していく一歩を踏み出していくのでしょうか。「共にキリストを証しするために」、これからの協力伝道を共に考え、共に祈り求めて参りましょう。

第 56 回 全国壮年大会 講演③（要約）

「西南神学部を SWOT する」

濱野道雄（西南学院大学神学部長／鳥栖キリスト教会）

いつも西南学院大学神学部と神学生をお支え下さり、ありがとうございます。西南学院大学教員で、今年度より神学部長をつとめております濱野道雄です。「３つの神学校の現状と伝道者養成を考える」というテーマで話をするように依頼されました。まず、「西南神学部の現状と伝道者養成を考える」ということで、基本的にお話しさせてください。

西南神学部の現状で考えるべきこととして、神学生の人数が減少していることがあります。人数を書き出してみたのですが、2017 年度は 20 名だったものが、2018 年度は 19 名、2019 年度は 14 名、2020 年度は 11 名、そして今年 2021 年度は 9 名になっております。この 5 年で半減した訳です。

その現状から具体的に次の一歩へと歩み出すためにどうすれば良いのかを考える時に使う、SWOT 分析という方法を使ってみたいと思います。SWOT 分析はある目標を目指すために使う方法です。私たち連盟の協力伝道である伝道者養成の目標は「御心に沿った伝道者養成」と言えるでしょう。

次にその目標を目指すために、現状を次の４点から分析します。まず強み(Strengths)です。目標達成にプラスとなる組織自体の特質のことです。次に弱み(Weaknesses)です。これは目標達成にマイナスとなる組織自体の特質です。そして機会(Opportunities)：目標達成にプラスとなる、ただし組織自体ではなく外部環境の特質です。最後に脅威(Threats)ですが、目標達成にマイナスとなる外部環境の特質をさします。そして、４つの要素を組み合わせ、次の一歩を探り出すという分析方法です。神学部の SWOT 分析においても向き合うべき諸教会、世界の人々とのコミュニケーションを充実させる必要があります。

●「T. 協力伝道、時代、社会における課題」

まず「T. 協力伝道、時代、社会における課題」から考えると、経済的に厳しい時代になったということです。牧師を経済的に教会財政だけで支えるためには経常献金 500 万円は必要と言えます。2019 年度の資料から言えば、５２％、半分強の教会は、自分の教会だけでは牧師を経済的に支えるのは難しいことになります。そこで牧師の兼職や、二つの教会を一人の牧師が兼任することを検討する教会も出てきています。

かつては仕事を中途退職して神学生になる方が多かったが、減っています。仕事を続けながら、兼職牧師になる道を探る方が、東京バプテスト神学校、九州バプテスト神学校に通っている方があると思います。またかつては 3 年次編入生が多かったのですが、今は高校を卒業して 1 年から入学する神学生が増えてきています。

次に少子化と人口減です。日本の１８歳未満の人口は、この３０年で半減しました。ですから神学生も、教会員数も、それに比例しているということも言えるでしょう。ただしそれと反比例するように外国籍の人々の人口は増加しています。

●宗教の「私事化」（ウルリッヒ・ベック）

「神は信じるが、教会はいきたくない」「イエスは好きだが、礼拝には参加したくない」「教会では、上からものを言われるのでいきたくない」「ボランティアをしている方が、上下の無い神の国に近づけると思う」「ネットで、共感できる教会の礼拝を見る」と言った人々が増えてきている訳です。宗教の「私事化」ということが、日本、そして北半球の教会で進んできています。

●「O. 協力伝道、時代、社会におけるチャンス」

ピンチは、チャンスにもなります。西南学院大学神学部では経済的サポートを受けて十分学ぶことができるというのは、大きなチャンスと思えます。また推薦教会を離れることにも大きな意味があるでしょう。バプテストは一つ一つの教会が良い意味で個性的です。自分の教会から離れバプテストの多様さを知り、仕事から離れ、じっくりと集中して学べることは、大きなチャンスに思えます。

また少子化で神学生数は少なくなり、これまで以上にじっくりと少人数教育を行っています。同時に、外国籍の人は増えておりますので、この日本という島で一緒に教会形成をして生きたと願います。西南神学部が世界中から、特にアジアの人々を招き、卒業してアジアと日本に送り出す神学校になる道を意識的に探りたいと思います。

また宗教の「私事化」についてはどうでしょうか。私は、この現象は悪い事ばかりでもないと考えています。私たち教会が変わるチャンスにもなると思うのです。上からものを言い、最悪な場合ハラスメントを行う教会に誰が来たいと思うでしょうか。１人１人の人権と個性を大切する教会になるチャンスにもなると思います。ただし、この「私事化」が、単なる個人主義になるだけならば問題でしょう。たとえば痛みを負った人や地域に対して、私は興味が無いと、関わりをもたないような個人主義的な信仰者があちこちに出てくることを、神も望んではいないでしょう。やはり共に生きること、連帯する事が大切ですし、その為にこそ教会があるのだと思います。

神学部の教育の３本柱は、授業、寮生活、そして教会での研修と長年申し上げておりますが、そのために不可欠な福岡地方連合等の研修教会の皆様のお支え、協力関係の長年にわたる蓄積は、大変有難い環境になっています。また、研修教会、そして神学生の推薦教会とのネットワークをつくり、Zoom を使用した協議会を繰り返し開催し、１人の神学生を多方向から支えるプログラムも現在行っております。

●「S. 西南神学部自体の優れた点」

西南学院大学神学部が、大学の一学部であり、連盟の教派的神学校であります。これまでは両立させてきました。大学ですから、教員が採用されるにあたっては、その学問レベルは問われます。そして研究分野のバランスを考え、神学を偏りなく学べる環境を整えることが、大学ですから厳しく求められます。神学の４本柱となる聖書学、歴史神学、組織神学、実践神学の分野のバランスを考えて、チームで神学教育ができるように話し合っています。

また大学で学ぶわけですから学際的、エキュメニカルな神学の学びが、神学部では出来ます。他学部の授業も参加可能です。また他教派の教員からも学び、キリスト教全体と同時に、バプテストをより深く理解できるようになる訳です。そして、アジアの広がりの中での学びが神学部では出来ます。アジア・バプテスト神学大学院との協定を結んでいるのも大きな強みです。神学部にも韓国、中国、ミャンマーなど、従来そして今も外国籍の神学生がいます。そして教員もそうです。グローバルゼーションの中、そのような新しい時代の新しい使命を担える神学校になる良いチャンスではないかとも思います。

また西南学院大学神学部の「強み」の点として、それも神学生だけのための寮を持てている事も大きなことです。神学寮はただ暮らすのではなく、教育寮です。そこで共なる生活を通して、生涯の仲間と、神学について存分語り合い、共に祈り、人間関係の作り方も数年にわたって学べるのは、神学生にとって大きな財産になるでしょう。

そして神学部の良さとして、神学の方向性も挙げられるかもしれません。皆さんの中には、「西南はリベラル過ぎる」という印象をお持ちの方もあるかもしれません。私たちは、常に聖書の原点に戻り、他の人の信仰を否定することだけはしない教育をしようとしていることは確かです。そして日本バプテスト連盟の宣教論に沿って、例えば６特別委員会の目指しているのと同じことを目指している、といったことは確認しました。例えば授業の「実践神学」では６特別委員会と障がい者と教会委員会の協力を得て、４年間ですべての委員会から学べるようにデザインされています。ルワンダ等での宣教、ハラスメントについて専門の研究者から学べる授業等も整っています。だからと言ってリベラル過ぎるということは当たらないと、私もずっと思っています。

そしてもう一つの良さとして、その人にあったコースの充実させることができています。６年コース（学部１年～修士）、４年コース（3 年次編入～修士）、3 年コース（3 年次編入～専攻科）、2 年コース（修士）、1 年コース（特別研修生等）と、その人と良く話し合いながら、ライフスタイルや、信仰的なニーズに合わせた教育ができるのも、西南の良い点でしょう。

●W　西南学院大学神学部自体の課題

しかし長所は、裏返せば短所です。大学であるという神学部の長所は、気をつけなければ確かに短所になりかねません。それが「西南は難しいことばかりやって、実際の教会形成に

役に立たないのではないか。教員は教会現場を知らない、知ろうとしていないのではないか」という誤解に結び付くのだと思います。それについては、卒業生が、それぞれの教会で、そして連盟の協力伝道で働いている姿を見れば、それが誤解であることはお分かりいただけると思います。

ただし、大学ですから、神学生に要求される学びの量と質は低くありません。多くの人は、学部論文と大学院論文の２回を書かなければならないし、それが本当に学位論文に相応しいかきちんと審査されます。

そして現在、実践神学の専任教員は２人おり、２人とも協力牧師をそれぞれの教会でしております。また、研修教会からのサポートを頂いての学びをさせて頂いておりますが、それは、あれかこれかと考えるのではなく、時代ごとの差異や、教会ごとの差異なども踏まえつつの学びも意識しています。

教会形成の学びをもっとも習得しやすいのは、実際に牧会しながら、自分のケースと比較しながら学ぶ時と思います。卒業してからも宣教研究所、東京バプテスト神学校、九州バプテスト神学校、地域の牧師会などで、継続した学びのための協力を頂ければ大変ありがたいし、それをお願い致します。

●次の一歩は？

次の一歩を考える際に大切なのは、まず、S（西南神学部自体の優れた点）とO（協力伝道、時代、社会におけるチャンス）を結び付けることでしょう。そうしますと、どのような次の一歩が待っているでしょか。「変わりゆく時代に、幅広い選択肢（従来の専任牧師も兼職牧師も、アジアから来て日本で、そしてアジアで宣教する牧師、色々な神学と宣教の幅が出来ている時代に、柔軟に、しかし明確に教会をリードできる牧師)、そういった様々な選択肢を選ぶことができる牧師を、伝道者養成専門機関として養成する」それがこれから10年の西南神学部の整える道ではないかと思います。この変化する時代に、多様性をしたたかに、持続可能に確保していくことが西南神学部ならではの道ではないかと思うのです。

ただしその際に、西南神学部だけでそれが出来る時代も終わりつつあると思います。そこでW(西南学院大学神学部自体の課題)と、T（協力伝道、時代、社会における課題）を乗り越えるために、連盟の協力伝道としての伝道者養成の働きの「優れた点」をつなぎ合わせる協力を、ぜひお願いいたします。

10年以上前から続けて私は言っている事なのですが、基本的にこのような協力関係が作れると良いなあと思っています。つまり東京バプテスト神学校や九州バプテスト神学校で生活基盤を持ちながら学ばれた方が、赴任する前に１年でも、研修生制度を活用して集中して学ぶ時を西南学院大学神学部で持って頂く。そして、卒業して牧師となった後も、宣教研究所や、東京バプテスト神学校と九州バプテスト神学校で継続した学びのサポートを受けられれば良いのではないかと思うのです。

●諸教会とのコミュニケーションをより充実させる。

私は、いままで西南学院大学神学部は、諸教会とのコミュニケーションに欠けた部分があったかもしれないと思っています。そこで誤解も生まれていったかもしれません。そこで諸教会の皆様、卒業生の皆様とよりコミュニケーションをより豊かに持つため、インターネット等も活用して対話していければと考えています。

例えば、2021 年度公開講座として「コロナ時代に神学は何を語るか」を企画しています。また、卒業生が再び学べるリカレントコースを、Zoom 会議を利用して今年やってみたいと思います。牧師以外の方も大歓迎しますので、ぜひご参加下さり、西南神学部が何を考え、何を大切にしているのか、そして皆様の声を、祈りを分かち合わせて頂ければ大変嬉しいです。今年度中に神学部ホームページのリニューアルを予定しております。ぜひ、分かち合いを続けていきましょう。

●最後になりましたが、伝道者養成は、私たちが共に神から招かれた、御一緒にやっていく私たちの仕事です。これからもどうぞ、お祈り、お支えをよろしくお願いいたします。

「東京バプテスト神学校の現状と取り組み」

奥田　稔 理事長
坂元　幸子校長

東京バプテスト神学校は、59 年前に信徒伝道者を養成することを目的として発足しました。その後、 教会の多様なミニストリーの必要性と教会形成における信徒の参与を重視し、「神学科・教会音楽科・教会教育科」の 3 つの科を設置しました。更に 35 年前に東京、北関東、神奈川の三連合立神学校となりました。 教室は茗荷谷キリスト教会をお借りして運営しています。

神学校は、信徒がより整えられた教会の奉仕者となるために学ぶ「本科」と、伝道者の召命を受けけた人が牧師・主事等になるために学ぶ「専攻科」を設置しています。専攻科の学生には全国壮年会連合を通して奨学金も給付されます。また、これらに加え、「信徒リーダー養成コース」、及び関心のある方はどなたでも、かつ単位を取らずに学ぶことができる「連続公開講座」も開講され、好評を博しています。「公開講座」には「教会共同受講」 も受け付けています。この「教会共同受講」は教会で数名のグループを作り、オンライン で 同時配信、あるいはビデオ受講で学ぶシステムです。神学校では数年前から先駆的にオンラインによるライブ授業を行ってきました。そのため、昨年来のコロナ危機への対応は非常にスムーズでした。

今年度春、6 名の入学者がありました（神学専攻科 4 名、神学本科 2 名）。これに既に在籍している教会音楽専攻科神学本科 2 名です。神学本科 13 名、教会音楽本科 1 名、信徒リーダーコース 3 名、聴講 6 名を加えますと、合計 30 名が在籍です。その他、連続公開講座 30 名、教会共同受講に 5 教会から 20 名の方々が受講されたので総勢のべ 80 名が前期学んでいることになります。そして、夏期公開講座と冬期公開講座は、専攻科神学生にとってのスクーリングの場ともなっています。

後期は 10 月より始まります。「組織神学Ｉ」を連盟宣教研究所所長の朴思郁先生に、また「アジアキリスト教史と連盟国外伝道を学ぶ」を日本キリスト教団立川教会牧師飯島信先生と連盟国外伝道室長井形英絵先生にそれぞれご担当いただきます。

東京バプテスト神学校は昨年末、ミッションステートメントを作成し、神学校の今後の使命と働きに新たな二つを加えました。その一つは「信徒および教役者の継続教育及び研修の実施」、もう一つは「諸教会の協力伝道の推進」です。東京バプテスト神学校を卒業し諸教会に仕える信徒及び教役者の方々が継続した学びと研修の機会を持てるよう、また、高齢化や奉仕者不足、無牧師など様々な課題を抱える諸教会・伝道所を励まして共に歩めるよう、東京バプテスト神学校はますます主の働きに仕えていきたいと祈っております。

ひとつ皆さまにお願いしたいことがあります。教会音楽科にぜひ学生をお送り下さい。現在の在校生が卒業すると、来年度は音楽科の学生が不在になります。コロナ危機で厳しい状況にある教会音楽科ですが、このような時だからこそ共に学びを深めて教会／礼拝音楽の新たな可能性を求めていきたいと祈っております。

どうぞ東京バプテスト神学校のためにお祈り、お支えをよろしくお願いいたします。

東京バプテスト神学校　　2022 年度開講課目のご案内

神学校の目的　：伝道者養成、信徒リーダー養成
学科・修業年限：本科（3 ヵ年)、神学専攻科（2 ヵ年)、教会教育専攻科（2 ヵ年)、
信徒リーダー養成コース（2 ヵ年)、教会音楽本科（3 ヵ年)、
教会音楽専攻科（2 ヵ年)、教会音楽奉仕者養成コース（2 ヵ年)、聴講
授　業　方　法：教会音楽科を除き、すべての授業を夜間にオンラインで行っている
受　講　方　法：

ライブ受講　インターネット経由での受講

ビデオ受講　授業の録画による受講（神学校ホームページから）

教会共同受講（ライブ・ビデオ）　入学手続きなしで誰でも学ぶことのできる公開講座を開催。教会単位（2 名以上）での受講。現在、コロナの影響で、教会共同受講でも各自の場所で受講できます。教会の信徒研修にいかがでしょうか。

＜ライブ・ビデオ受講は、全国どこからでも受講が可能です。＞

詳細は、神学校にお問い合わせください。

2022 年度 前期開講課目

神学特講（公開講座、内容は検討中)、旧約聖書神学概論、公開講座「組織神学Ⅱ」、ヘブル語初級、礼拝学Ⅱ、連続公開講座「信徒のための説教学」、新約聖書神学概論、合唱、指揮法Ⅲ、作曲・編曲

※夏期公開講座「バプテストの教会形成Ⅰ」（アメリカのバプテスト教会の歩みから）

2022 年度後期開講課目

神学特講「旧約釈義：詩編を読む」（公開講座)、教会学校論、神学入門（公開講座)、教会史Ⅱ（宗教改革～現代)、ヘブル語中級、教会音楽概論、連続公開講座「牧会カウンセリング」、合唱、和声学、

※冬期公開講座「バプテストの教会形成Ⅱ」（日本のバプテスト教会の歩みを振り返る）

〒112－0012　東京都文京区大塚 1-1-18　TEL:03-3947-5141　FAX:03-3947-5145
E-mail：seminary@tbts.jp

21 年度夏季講座集合写真／オンライン

合唱の様子

「九州バプテスト神学校の現状と取り組み」

踊 一郎 理事長、城前 和徳 校長、松見 俊 宣教センター長、
前坂 昌広 事務局長、川内 光 後援会事務局長

西南学院大学神学部は、60 年くらい前までは、まだ一つの学部ではなく、文学部の中の一学科でした。その中に通信教育課程があり、少し遅れて西南聖書学院ができましたが、さまざまな理由により閉鎖されました。九州バプテスト神学校は、このような通信課程の精神（スピリット）を継承しています。当神学校は 1988 年 10 月に鳥飼教会の一室で始まりました。今年で 33 年になります。これまでに学んだ人は１４９名、そして諸教会・伝道所で主に仕えた人は、８０名です。主はこれからもご自分の働き人を求めておられます。当神学校の主な働きは３つあります。①牧師・伝道師の養成、②信徒リーダーの養成、③諸教会・伝道所の課題を共に考え、教会強化の道を見出す。2021 年度の学生は、専攻科(牧師コース、主事・信徒リーダーコース)に４名、本科に２名、聴講生に４名が与えられ、総勢４０人でスタートできました。

講義は、教会・伝道所の現場で、教会員と共に苦しみ、泣き、且つ喜びを共有しつつ、教会形成に励んでおられる牧師、信徒の方々を中心に、担って頂いております。また、西南学院大学神学部で教鞭をとっておられた先生方（小林洋一、松見俊、寺園喜基）と、法学部で教鞭をとっておられた河島幸夫先生にも講義をお願いしています。講義のほかに年一回「スクーリング」を数日にわたり開催し、学生と講師陣との豊かな主に在る学びと交わりを行っています。

九州バプテスト神学校では、学生全員にメンターを付けて、講師と学生の関係を大事にしながら勉学、教会生活、個人的な課題を共有しながらの歩みをしております。尚、メンターは、卒業されて教会現場で牧師として奉仕しておられる方々にも付けております。

宣教センターの働きは、専業牧師への献身のあり方を中核にしつつも、兼職・兼業で教会に仕える人たちの傍らにいて、教会とは何であり、どのような使命があるかを考え、具体的な宣教施策を模索します。恒例となった教会形成協議会（無牧師教会協議会）を更に豊かに提供します。「時のしるし」の中での宣教、ケリュグマを「時のしるし」の中で展開するリカレント講演会なども企画します。また、教会を形成する教会員たち（牧師も「教会員」ですが）の相互研鑽を支援するプログラムを提供します。今年は、「わかりやすいキリスト教イロハ」、「楽しい信徒運動としての教会学校：聖書の共同学習：」などの DVD シリーズを制作します。そして、孤立しがちな諸教会・教会のリーダーたちが連帯し、協働できる環境を整える。伊藤隆夫先生が造られた「無牧師教会マニュアル」の新版松見俊ヴァージョンを作成します。このヴァージョンには「信徒説教の手引き」も付論として添付します。

九州バプテスト神学校では、40 名の方々が学んでおりますが、その多くは昼間に働いて、帰宅後に学びをされています。インターネットや DVD を使っての通信教育も充実しております。

３年後には、連盟からの支援金が無くなることが大きな課題となっておりますが、この学びの場を支えるために皆様からのご理解とご支援とをお願い申し上げます。

九州バプテスト神学校

2022年度学生募集のご案内
あなたもぜひ学んでみませんか！

書類締切日 2022年2月1日（火）　**入試・面接** 2022年2月5日（土）

- 働きながら学べる夜間の神学校（午後6時30分～9時）
- 教会の具体的な活動に結びつける学び、特に実践教育を重視
- すべてのコースでインターネット、DVDによる通信教育

履修課程

- 本科3年
- 専攻科2年（本科終了後）：牧師コース、主事・信徒リーダーコース
- 聴講：聴講生は1科目から受講実施

応募資料をお送りしますので、お気軽にお問合せください。

［教室および事務局］

〒810-0041

福岡市中央区大名1-12-17　大名クロスガーデン内

TEL・FAX：092-985-1812

Eメール：kyubap-jimukyoku@kaz.bbiq.jp

全国壮年大会　閉会礼拝説教
「共に建てられる神の住まい」
エフェソの信徒への手紙２章１４節～２２節

加山 献 牧師（早良キリスト教会）

私は早良キリスト教会牧師の加山献と申します。西南学院大学神学部を卒業し、牧師として赴任して４年目の夏を過ごしています。

昨年の最初の緊急事態宣言の間は、会堂に集まっての礼拝をおこなわず、奉仕者のみが会堂に集まり、インターネットを通して礼拝を配信しました。全国諸教会においても大変な状況にあったと思いますが、早良教会にとりましても、このような事態は伝道を開始してから一度も体験したことのないことでした。

感染症対策による教会活動の制限によって、教会とは何か、礼拝とは何か、私たちはこの場所に何のために集り、何のために同じ時間を共有していたのか、様々なことが教会に集う一人一人に問いかけられました。教会の中には様々な意見があり、一つの結論を出すことにとても苦労しましたが、結果として早良教会の場合は、二度目の緊急事態宣言からは、教会堂の閉鎖はおこなわずに、教会の扉を開き続けることにしました。このような時だからこそ、この地域に建てられている教会として、扉を開き続ける必要があると思われたからです。

そのことを象徴するようなことが去年のクリスマスにありました。昨年のクリスマスは、地域の方々をお招きして開催するかどうか、非常に悩ましい状況でした。ですが教会の方々と祈りつつ話し合い、思いきってチラシを用意し、近所に配布することにしました。このような状況で、果たして子ども達や保護者の方々は来て下さるだろうか、半信半疑でしたが、ふたを開けてみれば、今まで開いてきた子ども会の中で一番多くの子どもたちが教会に集いました。話を聞いてみると、やはりコロナ禍の中で、学校も、町内会も、子ども達のためのクリスマス会を中止していたそうです。「このような状況の中で、子ども達を迎えてくださってありがとうございます。」そのようにおっしゃった方の言葉を聞いて、教会員一同、迷いながらでしたが、「ああ、このことをやって良かったな」と、互いの労をねぎらい、励ましあうことができました。

今、世界は様々な壁によって、幾つにも分断されている様に感じます。あらゆる差別や偏見によって分断された社会に私たちは生きています。時に、その壁は教会の中にも侵入して、私たちの心と心に断絶をもたらすことがあります。しかし、そのような隔ての壁を取り壊し、二つのものを一つにして下さる方が私たちの救い主イエス・キリストであり、主イエスは十字架を通して、平和を実現した、と告げられています。それはもう既に、実現したのだ、と語られています。それゆえに「あなたがたはもはや、外国人でも寄留者でもなく、聖なる民に属する者、神の家族である」と宣言されています。この宣言はエフェソの教会に新しい自己認識をもたらす言葉でした。それは、現代を生きる私たちにとっても大切な自己認識です。

昨年から続くパンデミックによって、人と人の距離は益々隔てられ、人間の孤立は深まってしまったように感じます。さらに世界の情勢を見る時に、このような試練に際して、私たちの内側にある醜いものがかえって露わになってしまったようにも思えます。しかし、私たちが抱えるあらゆる破れや痛みにも関わらず、そのただ中に、主イエスが十字架を通して神との和解、また人と人との和解を実現してくださいました。私たちに知らされる良き知らせ、福音は平和の福音であると、聖書は語っています。この平和の福音こそが、いつの時代も教会が告げ知らせていくべき知らせであると思います。

私たちはパンデミックを通して、私たちが互いに繋がりあい、助けあい、支えあって生きていくことがどれほど大切だったのかを改めて知ることができました。なんでもないと思っていた日常がどれほど尊いものであったかを知らされ、「あなた」と「わたし」という存在が共に向かい合って生きる、ということが私たちの人生に不可欠であったことを改めて知らされました。人と人が共に生きる所に神の国が到来します。エフェソの信徒への手紙２章２２節は次のように語っています。「キリストにおいて、あなたがたも共に建てられ、霊の働きによって神の住まいとなるのです。」

第56回全国壮年大会福岡大会会計報告

（自2019年11月29日　至2021年9月30日）

大会実行委員長　藤　寿　（那珂川）
会計　堤　秀幸（福岡西部）

【収　入】　（単位：円）

科　目	金　額	備　考
全国壮年会連合補助金	200,000	
福岡地方連合補助金	600,000	
大会献金（神学校献金振込み分）	431,000	2021年9月30日締切分まで
銀行利息	4	
収入合計	1,231,004	

【支　出】

科　目	金　額	備　考
[大会運営費]		
会場費	30,000	
Zoom契約料	2,700	
講師等謝礼	145,000	
講師等弁当代	9,720	
小計	187,420	
[事務費]		
資料作成費	11,980	資料作成費、印刷費
通信費	13,920	資料等送料
雑費	3,569	文具費、振込料
小計	29,469	
[実行委員会費]		
会場費	58,000	実行委員会会場使用料
交通費	153,700	実行委員会交通費
雑費	12,819	茶菓代
小計	224,519	
[献金]		
神学校献金	431,000	大会献金（神学校献金振込み分）
小計	431,000	
[戻し入れ]		
福岡地方連合	358,596	補助金返金
小計	358,596	
支出合計	1,231,004	

「10月1日以降に振込まれた大会の神学校献金の分 については、年度末の神学校献金の報告に、大会分として記載いたします」

第５６回全国壮年大会参加者名簿（追加登録を含む）

・８月２６日現在の参加登録者数は、３０４名です。
・Zoomに参加したアカウント数は、２１２でした。
・上記のアカウント数に加えて、教会などで４４名が一緒に参加されています。
・大会スタッフの７名は、インターネットに接続せずに参加しました。
・２６３名が、参加したことにはなりますが、部分的に参加された数は把握できません。
・欠席の連絡を頂いた方は、４名です。

2021年8月26日

No	地方連合	教会名	氏名
1	01_北海道	旭川バプテスト教会	田森　茂基
2	01_北海道	小樽バプテスト教会	エイカーズ　愛
3	01_北海道	小樽バプテスト教会	津田　司
4	01_北海道	帯広バプテスト・キリスト教会	雨宮　秀行
5	01_北海道	帯広バプテスト・キリスト教会	西島　啓喜
6	01_北海道	帯広バプテスト・キリスト教会	西島　邦子
7	01_北海道	帯広バプテスト・キリスト教会	澤田　二穂
8	01_北海道	釧路キリスト教会	マシュー・チン・メイ・マン
9	01_北海道	釧路キリスト教会	奥村　敏夫
10	01_北海道	釧路キリスト教会	上野博文
11	01_北海道	釧路キリスト教会	大野　学
12	01_北海道	札幌バプテスト教会	浦瀬　佑司
13	01_北海道	札幌バプテスト教会	小林　俊一
14	01_北海道	札幌バプテスト教会	堂前　剛志
15	01_北海道	苫小牧バプテスト・キリスト教会	原田　恵雨
16	02_東北	仙台基督教会	向井田　洋
17	02_東北	仙台長命ヶ丘教会	金丸　真
18	02_東北	大富キリスト教会	伊東　信吉
19	02_東北	大富キリスト教会	小田　衛
20	02_東北	南光台教会	田中　信矢
21	02_東北	福島主のあしあとキリスト教会	大島　博幸
22	02_東北	福島主のあしあとキリスト教会	渡邊　憲一
23	02_東北	盛岡バプテスト教会	飯島　隆
24	02_東北	山形キリスト教会	杉山　修一
25	02_東北	山形キリスト教会	山口　宜由紀
26	03_北関東	上尾キリスト教会	笹川　均
27	03_北関東	上尾キリスト教会	秋山　信夫
28	03_北関東	宇都宮キリスト教会	竹内　一夫
29	03_北関東	宇都宮キリスト教会	天野　英二
30	03_北関東	浦和キリスト教会	角田　秀明
31	03_北関東	浦和キリスト教会	原田　潔
32	03_北関東	浦和キリスト教会	二見　眞義
33	03_北関東	太田キリスト教会	石井　努
34	03_北関東	大宮バプテスト教会	佐藤　光代
35	03_北関東	高崎キリスト教会	高井　透
36	03_北関東	所沢キリスト教会	松永　政弘
37	03_北関東	所沢キリスト教会	坂本　献
38	03_北関東	所沢キリスト教会	大城戸　一彦
39	03_北関東	所沢キリスト教会	大場　和夫
40	03_北関東	西川口キリスト教会	戸田　浩司
41	03_北関東	西川口キリスト教会	柳澤　芳信
42	03_北関東	日立バプテスト教会	井伊　肇
43	03_北関東	ふじみ野バプテスト教会	山下　真実
44	03_北関東	日本バプテスト前橋教会	下舞　賢一
45	03_北関東	日本バプテスト前橋教会	水尾　謙作
46	03_北関東	日本バプテスト前橋教会	前野　惇
47	03_北関東	日本バプテスト前橋教会	田代　仁
48	03_北関東	宮原キリスト教会	足立　智幸
49	03_北関東	宮原キリスト教会	飯野　實
50	04_東京	赤塚バプテスト教会	星　文也
51	04_東京	市川八幡キリスト教会	中村　幸嗣
52	04_東京	市川八幡キリスト教会	鳥飼　好男
53	04_東京	青梅あけぼのキリスト教会	相山　憲司
54	04_東京	青梅あけぼのキリスト教会	田中　太郎
55	04_東京	青梅あけぼのキリスト教会	兵頭　穂高
56	04_東京	大井バプテスト教会	加藤　誠
57	04_東京	大井バプテスト教会	加藤　泉
58	04_東京	大井バプテスト教会	山田　誠一
59	04_東京	大久保バプテスト教会	河野　信一郎
60	04_東京	恵泉バプテスト教会	高良　研一
61	04_東京	恵泉バプテスト教会	竹下　達也
62	04_東京	品川バプテスト教会	村中　範光
63	04_東京	品川バプテスト教会	山田　雅之
64	04_東京	品川バプテスト教会	片桐　健司
65	04_東京	篠崎キリスト教会	鬼澤　寛
66	04_東京	篠崎キリスト教会	上原　一晃
67	04_東京	篠崎キリスト教会	川口　通治
68	04_東京	立川バプテスト教会	大川　博之
69	04_東京	千葉バプテスト教会	永瀬　道臣
70	04_東京	千葉バプテスト教会	坂井　信生

71	04_東京	調布バプテスト教会	中村　茂
72	04_東京	東京北キリスト教会	奥田　悟
73	04_東京	東京北キリスト教会	郭　修岩
74	04_東京	東京北キリスト教会	細井　留美
75	04_東京	東京北キリスト教会	米本　裕見子
76	04_東京	常盤台バプテスト教会	岩崎　秀子
77	04_東京	常盤台バプテスト教会	栗山　義亜
78	04_東京	常盤台バプテスト教会	工藤　征治
79	04_東京	常盤台バプテスト教会	篠　松次郎
80	04_東京	常盤台バプテスト教会	和田　一夫
81	04_東京	中野バプテスト教会	木村　晋治
82	04_東京	八王子めじろ台バプテスト教会	小河　義伸
83	04_東京	花野井バプテスト教会	古賀　公一
84	04_東京	花野井バプテスト教会	鈴木　武史
85	04_東京	府中キリスト教会	長尾　なつみ
86	04_東京	府中キリスト教会	井東　健男
87	04_東京	目白ヶ丘教会	高地　輝夫
88	04_東京	目白ヶ丘教会	根岸　靖明
89	04_東京	目白ヶ丘教会	坂口　昌彦
90	04_東京	目白ヶ丘教会	松田　俊介
91	05_神奈川	川崎バプテスト教会	安里　耕二
92	05_神奈川	川崎バプテスト教会	松藤　一作
93	05_神奈川	川崎バプテスト教会	渡邉　亶
94	05_神奈川	川崎バプテスト教会	豊永　義典
95	05_神奈川	港南めぐみキリスト教会	古家　克務
96	05_神奈川	港南めぐみキリスト教会	神山　武
97	05_神奈川	相模中央キリスト教会	岡澤　幸一
98	05_神奈川	相模中央キリスト教会	花方　健
99	05_神奈川	相模中央キリスト教会	木原　道雄
100	05_神奈川	湘南台バプテスト教会	坂元　俊郎
101	05_神奈川	逗子第一バプテスト教会	杉野　省治
102	05_神奈川	平塚バプテスト教会	平野　健治
103	05_神奈川	百合丘キリスト教会	氷川　英俊
104	05_神奈川	洋光台キリスト教会	松井　清
105	05_神奈川	洋光台キリスト教会	森　三樹
106	05_神奈川	洋光台キリスト教会	清水　保弘
107	05_神奈川	洋光台キリスト教会	椎名　泉
108	05_神奈川	横須賀長沢キリスト教会	根塚　幸雄
109	05_神奈川	横浜戸塚バプテスト教会	清水　則之

110	05_神奈川	横浜戸塚バプテスト教会	湧上　靖
111	05_神奈川	横浜戸塚バプテスト教会	濱崎　信郎
112	05_神奈川	横浜戸塚バプテスト教会	近藤　芳雄
113	05_神奈川	横浜戸塚バプテスト教会	堀野　浩嗣
114	05_神奈川	横浜戸塚バプテスト教会	内田　泰亮
115	05_神奈川	横浜戸塚バプテスト教会	井東　元
116	05_神奈川	横浜ニューライフバプテスト教会	田坂　元彦
117	05_神奈川	横浜ニューライフバプテスト教会	小平　公憲
118	05_神奈川	横浜ニューライフバプテスト教会	光安　鋭輔
119	06_西関東	静岡キリスト教会	松坂　克世
120	06_西関東	清水栄光キリスト教会	石渡　修司
121	06_西関東	浜松バプテスト教会	伊藤　勝彦
122	06_西関東	浜松バプテスト教会	古賀　和雄
123	06_西関東	浜松バプテスト教会	松岡　忠隆
124	06_西関東	浜松バプテスト教会	須河内　彰
125	06_西関東	松本蟻ケ崎キリスト教会	川井　高雄
126	06_西関東	三島バプテスト教会	本多　英一郎
127	07_中部	各務原バプテスト教会	後藤　寿
128	07_中部	各務原バプテスト教会	黒岩　俊介
129	07_中部	各務原バプテスト教会	長谷　幸雄
130	07_中部	各務原バプテスト教会	洞田　雄亮
131	07_中部	金沢キリスト教会	河原　猛
132	07_中部	金沢キリスト教会	杉山　望
133	07_中部	金沢キリスト教会	田口　昭典
134	07_中部	岐阜バプテスト教会	山田　崇史
135	07_中部	岐阜バプテスト教会	河合　昇
136	07_中部	岐阜バプテスト教会	田口　清吾
137	07_中部	岐阜バプテスト教会	田川　徹
138	07_中部	豊橋キリスト教会	小林　大記
139	07_中部	豊橋キリスト教会	吉田　良一
140	07_中部	名古屋キリスト教会	富士栄　迪
141	07_中部	平針キリスト教会	谷綛　安雄
142	07_中部	南名古屋キリスト教会	山川　康夫
143	07_中部	四日市教会	加藤　英治
144	07_中部	四日市教会	山内　章彦
145	07_中部	福井キリスト教会	平良　憲誠
146	07_中部	福井キリスト教会	平良　民枝
147	07_中部	福井キリスト教会	山村　幸子
148	07_中部	福井キリスト教会	台原　真理子

149	07_中部	福井キリスト教会	佐々木　直美
150	08_関西	北山バプテスト教会	小櫻　信
151	08_関西	神戸バプテスト教会	西脇　慎一
152	08_関西	神戸伊川キリスト教会	鮫島　泰子
153	08_関西	神戸伊川キリスト教会	鮫島　能章
154	08_関西	宝塚バプテスト教会	稲川　仁
155	08_関西	宝塚バプテスト教会	北村　愼二
156	08_関西	鳥取バプテスト教会	横濱　峰二子
157	08_関西	姫路城西キリスト教会	池内　淳
158	09_中四国	岡山バプテスト教会	鳥井　正也
159	09_中四国	高知伊勢崎キリスト教会	くずめ　よし
160	09_中四国	高知伊勢崎キリスト教会	平林　稔
161	09_中四国	高松太田キリスト教会	大竹　敏生
162	09_中四国	高松太田キリスト教会	武井　邦夫
163	09_中四国	高松太田キリスト教会	蓮井　勝美
164	09_中四国	高松常磐町キリスト教会	梶井　義郎
165	09_中四国	高松常磐町キリスト教会	松本　一幸
166	09_中四国	高松常磐町キリスト教会	植村　克己
167	09_中四国	道後キリスト教会	宮本　恵
168	09_中四国	道後キリスト教会	松田　裕二
169	09_中四国	広島キリスト教会	石倉　央
170	09_中四国	広島キリスト教会	播磨　聡
171	09_中四国	広島キリスト教会	寺見　俊昭
172	09_中四国	緑の牧場キリスト教会	田中　佳幸
173	10_北九州	芦屋キリスト教会	吉津　弘
174	10_北九州	芦屋キリスト教会	尹　正鉉
175	10_北九州	臼杵キリスト教会	永松　博
176	10_北九州	大分キリスト教会	梅木　芳昭
177	10_北九州	大分キリスト教会	武宮　陽子
178	10_北九州	大分キリスト教会	村田　悦
179	10_北九州	大分キリスト教会	石井　達
180	10_北九州	日本バプテストシオン山教会	伊藤　光雄
181	10_北九州	日本バプテストシオン山教会	斉藤　弘司
182	10_北九州	日本バプテストシオン山教会	大里　克夫
183	10_北九州	日本バプテストシオン山教会	田中　秀一
184	10_北九州	東八幡キリスト教会	下別府　為治
185	10_北九州	東八幡キリスト教会	菊川　清志
186	10_北九州	東八幡キリスト教会	佐藤　公廣
187	10_北九州	東八幡キリスト教会	川内　哲夫

188	10_北九州	東八幡キリスト教会	梅田　孝
189	10_北九州	若松バプテスト教会	中村　熙
190	10_北九州	若松バプテスト教会	吉田　光慶
191	10_北九州	若松バプテスト教会	永町　友恵
192	10_北九州	門司港キリスト教会	石橋　貞男
193	11_福岡	伊都キリスト教会	古賀　浩一
194	11_福岡	伊都キリスト教会	二宮　晃夫
195	11_福岡	伊都キリスト教会	喜納　史敏
196	11_福岡	春日原キリスト教会	原田　賢
197	11_福岡	春日原キリスト教会	八幡　正弘
198	11_福岡	香住ケ丘バプテスト教会	久賀　英男
199	11_福岡	粕屋バプテスト教会	髙地　京子
200	11_福岡	古賀バプテスト教会	泉　清隆
201	11_福岡	古賀バプテスト教会	長妻　克彦
202	11_福岡	古賀バプテスト教会	金子　純雄
203	11_福岡	古賀バプテスト教会	泉　美智子
204	11_福岡	早良キリスト教会	加山　献
205	11_福岡	早良キリスト教会	朱　承圭
206	11_福岡	西南学院バプテスト教会	踊　一郎
207	11_福岡	西南学院バプテスト教会	三室　日朗
208	11_福岡	西南学院バプテスト教会	相模　裕一
209	11_福岡	西南学院バプテスト教会	安藤　公正
210	11_福岡	田隈バプテスト教会	篠田　裕俊
211	11_福岡	筑紫野二日市キリスト教会	加来　国生
212	11_福岡	筑紫野二日市キリスト教会	小林　芳樹
213	11_福岡	筑紫野二日市キリスト教会	福永　敦
214	11_福岡	鳥飼バプテスト教会	三田　照雄
215	11_福岡	鳥飼バプテスト教会	大櫛　秀毅
216	11_福岡	鳥飼バプテスト教会	中冨　勇夫
217	11_福岡	鳥飼バプテスト教会	今村　光利
218	11_福岡	那珂川キリスト教会	藤　寿
219	11_福岡	長住バプテスト教会	小林　洋一
220	11_福岡	長住バプテスト教会	中條　譲治
221	11_福岡	野方キリスト教会	小林　鐵志
222	11_福岡	野方キリスト教会	三井　文勝
223	11_福岡	バプテスト東福岡教会	松見　俊
224	11_福岡	平尾バプテスト教会	森　崇
225	11_福岡	平尾バプテスト教会	青野　太潮
226	11_福岡	平尾バプテスト教会	中西　英二

227	11_福岡	平尾バプテスト教会	馬場　和幸
228	11_福岡	平尾バプテスト教会	肘井　利美
229	11_福岡	平尾バプテスト教会	福永　聡子
230	11_福岡	福岡バプテスト教会	土山　清郎
231	11_福岡	福岡バプテスト教会	小川　宏嗣
232	11_福岡	福岡有田バプテスト教会	松田　和夫
233	11_福岡	福岡国際キリスト教会・糸島集会	木村　公一
234	11_福岡	福岡城西キリスト教会	川内　光
235	11_福岡	福岡城西キリスト教会	長尾　基詩
236	11_福岡	福岡西部バプテスト教会	諏訪田　光弘
237	11_福岡	福岡西部バプテスト教会	大杉　正樹
238	11_福岡	福岡西部バプテスト教会	堤　秀幸
239	11_福岡	福岡西部バプテスト教会	松藤　真理奈
240	11_福岡	福岡ベタニヤ村教会	伊原　幹治
241	11_福岡	福岡ベタニヤ村教会	村田　一太
242	11_福岡	福岡ベタニヤ村教会	大石　和可子
243	11_福岡	福間キリスト教会	兼行　一弘
244	11_福岡	福間キリスト教会	田宮　宏介
245	11_福岡	福間キリスト教会	野口　真
246	11_福岡	姪浜バプテスト教会	奥村　献
247	11_福岡	姪浜バプテスト教会	池田　道治
248	11_福岡	姪浜バプテスト教会	石田　孝
249	11_福岡	姪浜バプテスト教会	柴田　博文
250	11_福岡	姪浜バプテスト教会	楢崎　寿一
251	11_福岡	姪浜バプテスト教会	鈴木　加織
252	11_福岡	姪浜バプテスト教会	鈴木　結生
253	11_福岡	姪浜バプテスト教会	鈴木　牧人
254	11_福岡	和白バプテスト教会	横山　正治
255	11_福岡	和白バプテスト教会	近藤　浩久
256	11_福岡	和白バプテスト教会	洪　淳奎
257	11_福岡	和白バプテスト教会	山根　寿
258	11_福岡	和白バプテスト教会	城前　和徳
259	12_西九州	相浦光キリスト教会	野中　滋生
260	12_西九州	嬉野キリスト教会	橋爪　義行
261	12_西九州	嬉野キリスト教会	橋爪　剛
262	12_西九州	嬉野キリスト教会	橋爪　彰博
263	12_西九州	嬉野キリスト教会	市川　進
264	12_西九州	嬉野キリスト教会	藤野　慶一郎
265	12_西九州	嬉野キリスト教会	木下　徹

266	12_西九州	大川キリスト伝道所	林　雄平
267	12_西九州	五島キリスト教会	中村　秀一
268	12_西九州	佐賀キリスト教会	山﨑　誠
269	12_西九州	佐賀キリスト教会	畑瀬　智幸
270	12_西九州	佐賀キリスト教会	牟田　泰明
271	12_西九州	佐賀キリスト教会	野口　聖
272	12_西九州	佐賀キリスト教会	崔　正先
273	12_西九州	佐賀キリスト教会	江口　秀雄
274	12_西九州	佐賀キリスト教会	中島　一弘
275	12_西九州	佐賀キリスト教会	福永　勇
276	12_西九州	長崎バプテスト教会	木村　幸治
277	11_西九州	有明キリスト教会	若杉　達生
278	13_南九州	伊集院キリスト教会	麦野　賦
279	13_南九州	伊集院キリスト教会	美園　和彦
280	13_南九州	伊集院キリスト教会	馬渡　健太郎
281	13_南九州	枕崎伝道所	地頭薗　達男
282	13_南九州	大牟田バプテスト教会	浦　肇
283	13_南九州	大牟田バプテスト教会	石橋　英一
284	13_南九州	大牟田バプテスト教会	福山　朗夫
285	13_南九州	菊池シオンキリスト教会	濱川　耕一
286	13_南九州	国分キリスト教会	マウマウタン
287	13_南九州	国分キリスト教会	酒井　一俊
288	13_南九州	国分キリスト教会	村上　光信
289	13_南九州	国分キリスト教会	立山　泰士
290	13_南九州	宮崎キリスト教会	中條　信治
291	13_南九州	宮崎キリスト教会	飯田　博美
292	13_南九州	八代伝道所	桑原　伸良
293	13_南九州	那覇新都心教会	岡田　富美子
294	14_神学部	西南学院大学神学部教員、福岡有田教会	日原　広志
295	14_神学部	西南学院大学神学部教員、自由ヶ丘教会	金丸　英子
296	14_神学部	西南学院大学神学部教員、鳥栖キリスト教会	濱野　道雄
297	14_神学部	西南学院大学神学部教員、平尾教会	才藤　千津子
298	14_神学部	西南学院大学神学部講師、福岡城南教会	ファン・ナムドク
299	14_神学部	西南学院大学神学部教員、福岡西部教会	須藤　伊知郎
300	14_神学部	西南学院大学神学部教員、和白教会	片山　寛
301	15_神学校	九州バプテスト神学校	前坂　昌広
302	15_神学校	東京バプテスト神学校、藤沢バプテスト教会	坂元　幸子
303	16_連盟	日本バプテスト連盟、所沢教会	中田　義直
304	17_宣教研究所	宣教研究所	朴　思郁

第 57 回全国壮年大会　in　北海道

大会主題「共に祈り、共に歩む～宣教の視野の拡がり～」

日程：2022 年 8 月 26 日（金）27 日（土）

開催地：北海道札幌市

北海道地方連合壮年会

会長　堂前剛志

私たち北海道地方連合壮年会は今から 11 年前第 45 回全国壮年大会開催しました。その時道内 16 教会で担いましたが今年 4 月にリビングホープ教会が札幌バプテスト教会と合併し 15 教会になりました。また 2 教会が無牧師となっています。

はじめに全国壮年大会の開催を打診された時、このような状況の中で開催を引き受けることができるのか随分と悩みました。昨年 8 月に天に召されたＩ兄に相談したところ「今でなければこの先北海道で開催することは出来ない」「大変かも知れないが引き受けるように」と強く勧められました。

前回の大会ではアフガニスタン灌漑施設を建設し、荒地を畑に変えることにより平和を築きあげていて、一昨年銃弾に倒れたペシャワール会の中村哲氏に「人は愛するに足る」と講演をしていただきました。

3 年振りに全国の壮年の皆さまと顔と顔を合わせて平和を祈ることができないか。また、壮年大会を開催すること機会に、北海道連壮年会の結びつきをより一層深めることができるのではないか考えました。

その後コロナウイルスの感染拡大があり、関西連合で開催予定第 55 回大会が中止となり今回開催の第 56 回全国壮年大会も Zoom での開催となりました。

今月になり全国のコロナウイルスの感染者が 14,000 人を超え、デルタ株の感染も拡がっています。私たち北海道地方連合壮年会が当初目指した形での開催は望めないかもしれません。

しかしながら今年度、Zoom を使って開催される第 56 回全国壮年大会を参考とさせていただいて、精一杯の大会を準備したく考えています。

現在テーマについては検討中ですが、各個教会が、それぞれに宣教を考え、担っていくに当たって、壮年としてどのように主体的に係わり続けて行くか、どのような教会を造ってゆく思いを一致させて行くかなどを考える機会を、作りたいと願っています。当然その中から専任の宣教者、専任でなくとも宣教に係わって行く献身者を生み出すためにはどうするかについても、共に考える場が出来ないかについて、一緒に作りたいと願っています。

スケジュール、プログラムの変更などが出ることもあるかもしれませんが、お許しください。

「各団体からのアピール」

日本バプテスト連盟　第６７回定期総会

＃ つながって共に歩む

■総会期日：２０２２年１月２０日（木）

■場　所：日本バプテスト連盟事務所（書面総会）

いつも「神学校献金」推進を感謝いたします。日本バプテスト連盟第６７回定期総会が開催されます。総会に先立って、総会標語「つながって共に歩む」と聖句（ヨハネによる福音書 15 章５節）を選定しました。今年も総会標語をもとにポスターを鈴木牧人牧師に描いていただきました。連盟総会を覚えてお祈りください。（常務理事・中田義直）

『ぶどう園と農夫』（画：鈴木牧人）

～今年度の聖句を思いながら描きました。総会聖句の前に「わたしの父は農夫である。～実を結ぶものはみな、いよいよ豊かに実を結ぶように手入れをなさる」(ヨハネ 15：1-2)とあります。主は、ぶどうの木が、さらに豊かに実を結ぶことができるようにと手入れをしてくださるのです。今総会では機構改革が話し合われます。これからさらに豊かな神の祝福の実を結ぶ群れとされていきますよう、主が先立って「新しい連盟のかたち」を整えてくださいますように祈ります。

社会福祉法人 キリスト者奉仕会

共に生きる
出会いを求めて

障がいがあろうがなかろうが、一人の人間として対等に生きていける社会の実現に向けて、「働く場所」「住む場所」の提供。障がい者の方の自己実現に向けて様々な支援・活動を行っています。

●大牟田恵愛園　●恵愛ワークセンター　●つくしんぼ　●障害者生活支援センターハーツ
●ヘルパーステーションハーツ　●障害者就労・自立支援センター たんぽぽ

定礎：ヨハネによる福音書１５章１２節
わたしがあなたがたを愛したように、
互いに愛し合いなさい。

法人ホームページ
https://www.shaho-keiai.jp

久山療育園からのアピール

伝道者養成をテーマに日々の貴重なお働きを感謝します。今年はコロナ禍のなか８月インターネット配信で「第 56 回全国壮年大会　In　福岡」を開催されたことを喜ばしく思います。

今年も久山療育園ではコロナ感染症防止対策を徹底しています。例えば、9 月 23 日（祝日）の開園祭を翌 24 日に変更し、創立感謝礼拝のみとし、出席者はボランティア活動表彰者、永年勤続表彰者等限定したものとなりました。例年では感謝礼拝に始まり公開療育、健康フェア、入所者とのふれあいの時間、模擬店等に多数の参加者があり大変賑わうものでしたが、昨年に必続き今年も縮小したものとなりました。コロナ禍が一日でも早く終息するように願うばかりです。

その中にあって、今年も久山療育園では全国の教会を始め壮年会や女性会の皆さま方のご支援を頂き、多額のご寄付や食事の際に入所者が使用する「エプロン」等をお贈り頂いていますことを心より感謝いたします。

また、久山療育園では、本日（10/5）まで、入所者、通園者、職員等にコロナ感染症が発生していません。これも全国の教会の皆様方のお祈りと神様のお守りがあることを感謝しています。

久山療育園

重症児者と共に生きる

「ミットレーベン・ネットワーク」の現状とお願い

重症児者施設「久山療育園」を支援するために設立された「バプテストコロニー友の会」は、一昨年の創立 50 周年を機に「ミットレーベン・ネットワーク」と改称しました。今、久山療育園も、そして私たちの活動もコロナ禍に翻弄される２年目にあります。他者に寄り添うことで成り立つボランティア活動が、「距離　ディスタンス」をとることで困難な状況にあるのです。

夏のワークキャンプ、秋の久山デー、冬のチャリティコンサート、そして、毎月・年末の街頭募金です。これら全てが中止になり、私たちの「共に生きる」活動を、十分に果たすことができない状況が続いています。50 年の歴史の中で、このような経験は初めてです。そういう中で始まった「ひさやまエプロンプロジェクト」と献金にご協力くださいますようお願いいたします。

詳しくは「愛の手を」最新号をご覧ください。　　会長　　伊原幹治

「エプロンプロジェクトの動画」

https://www.youtube.com/watch?v=hXpHlkn1N2E

動画 QR コード

全国壮年会連合43年の歩み

＜資 料＞

周年	年	大 会	場　　所	参加人数	神学校献金額（万円）	神学校献金目標額（万円）	壮年会員数	会費納入者数	納入比率	備　　考
	1978	第13回	埼玉・所沢　湖畔荘	110	―	―	2421	―	―	連合発足総会
1	1979	第14回	静岡・天城山荘	64	550	400	2560			
2	1980	第15回	福岡・神学部	210	704	600	2694	213	7.9	
3	1981	第16回	東京バプテスト教会	180	898	800	2718	765	28.1	
4	1982	第17回	広島・広島教会	140	966	1000	2859			
5	1983	第18回	東京・常盤台教会	170	1075	1200	3032	1049	34.6	
6	1984	第19回	名古屋・名古屋教会	140	1225	1300	3106	1003	32.3	
7	1985	第20回	埼玉・浦和教会	166	1244	1350	3241	1203	37.1	
8	1986	第21回	福岡・西南学院	275	1340	1400	3300			
9	1987	第22回	東京・大井教会	300	1409	1450	3336	1363	40.9	
10	1988	第23回	京都・京都教会他	200	1460	1500	3391	958	28.3	
11	1989	第24回	福岡・西南学院教会	225	1491	1550	3424	1994	58.2	宣教100周年
12	1990	第25回	宮城・仙台教会	180	1603	1650	3518	1464	41.6	
13	1991	第26回	東京・常盤台教会	200	1724	1750	3613	1446	40.0	
14	1992	第27回	北海道・札幌教会	148	1698	1850	3643	1351	37.1	
15	1993	第28回	神奈川・川崎教会	200	1725	2000	3679	1536	41.8	
16	1994	第29回	福岡・西南女学院	230	1740	2100	3841	1309	34.1	
17	1995	第30回	埼玉・浦和文化ｾﾝﾀｰ他	280	1776	2800	3916	1222	31.2	
18	1996	第31回	香川・香川厚生年金会館	243	1930	2850	3987	1351	33.8	
19	1997	第32回	静岡・天城山荘	146	2013	2850	3982	1343	33.7	
20	1998	第33回	佐賀・ﾎﾃﾙはがくれ荘他	196	2011	2850	3861	1542	39.9	
21	1999	第34回	横浜・郵貯会館他	260	1928	2200	3930	1547	39.3	
22	2000	第35回	岐阜・羽島文化センター	250	2123	2400	3982	1652	41.5	
23	2001	第36回	埼玉・ラフレさいたま他	280	2137	2400	3972	1561	39.3	
24	2002	第37回	神戸市産業振興ｾﾝﾀｰ他	255	2252	2400	3972	1553	39.1	
25	2003	第38回	静岡・天城山荘	160	2226	2500	3970	1608	40.5	
26	2004	第39回	青森・古牧温泉Gホテル	200	2421	2500	4021	1596	39.7	
27	2005	第40回	静岡・天城山荘	160	2498	3000	4076	1671	41.0	
28	2006	第41回	鹿児島・東急ホテル	208	2446	3000	4054	1630	40.2	
29	2007	第42回	静岡・天城山荘	110	2480	3000	4076	1771	43.4	
30	2008	第43回	福岡・西南学院大学	620	2491	3000	4164	1708	41.0	神学部建学100周年
31	2009	第44回	茨城・つくば国際会議場	280	2411	3000	4203	1658	39.4	
32	2010	第45回	北海道・札幌教会	223	2325	3000	4248	1630	38.4	
33	2011	第46回	静岡・天城山荘	164	2346	3000	4230	1537	35.9	
34	2012	第47回	名古屋・ガスホール	278	2228	3000	4256	1543	36.3	
35	2013	第48回	福岡・西南学院大学	480	2292	3000	4150	1493	35.9	
36	2014	第49回	広島市文化交流会館	235	2284	3000	2601	1456	55.9	会員数算出基準変更
37	2015	第50回	東京・大田区産業プラザPIO 大井ﾊﾞﾌﾟﾃｽﾄ教会	267	2227	3000	2546	1534	60.2	
38	2016	第51回	北九州・西南女学院 シオン山教会	397	2235	3000	2466	1435	58.2	
39	2017	第52回	静岡・天城山荘	135	2299	3000	2404	1471	61.2	
40	2018	第53回	仙台・尚絅学院中学校・高等学校礼拝堂	125	1986	3000	2385	1447	60.6	
41	2019	第54回	静岡・天城山荘	135	1944	3000	2387	1487	62.3	
42	2020	第55回	神戸教会（感染症対策により中止）	－	1603	3000	2396	1226	51.1	
43	2021	第56回	Web（ZOOM）福岡大名クロスガーデン	304		3000				